

田園環境都市おやまビジョン 基礎資料

大谷南部地区



2023 年 10 月

小山市

田園環境都市おやまビジョン 基礎資料 | 大谷南部地区

目次

I 調査の趣旨と調査概要	1
1 目的	
2 本調査の「風土性調査」としての性格付け	
3 地域での各種調査	
4 調査報告	2
5 田園環境都市おやまビジョン基礎資料の作成	
II 踏査および文献調査による報告	3
1 大谷南部地区の概況	
2 地域の自然について	4
3 地域の自然への人の働きかけについて	13
4 地域と人々の心身の結びつき	23
5 景観から読みとれるその他のこと	25
III 簡易社会調査による報告	28
1 目的と実施概要	
1-1 目的について	
1-2 実施概要について	
1-3 座談会形式のグループインタビューについて	
1-4 アンケート調査について	
2 結果整理の手法について	29
3 各調査の結果報告	30
3-1 グループインタビューの記録	
3-2 アンケート調査結果（概要と考察）	48
参考・引用文献	65

I 調査の趣旨と調査概要

1 目的

小山市では、生態系の頂点に立つコウノトリが定着・繁殖するラムサール条約湿地「渡良瀬遊水地」を擁する、都市環境と田園環境が調和したまちとして、小山市の現在の環境を将来にわたり維持向上させていくため、これからのまちづくりを「田園環境都市おやま」と呼び、SDGs の実践と一体化したまちづくりに取り組もうとしている。

本調査は、上記背景を踏まえて、踏査（現地調査）、地域の聞き取り調査、文献調査を実施して基礎資料を作成し、小山市における持続可能な社会実現に向けた「田園環境都市おやま」を具現化させるとともに、市民・企業・市民団体・行政など各主体に「田園環境都市おやま」を浸透させて各種取組みの深化を図るものである。

2 本調査の「風土性調査」としての性格付け

本調査は、地域の風土性（風土の性質、成り立ち）に着目して行った。「気候風土」から「企業風土」まで、人々になじみのある風土は、地域の自然に人間が暮らしと生業を通して働きかけてかたちづくられる（詳細はⅡ章を参照）。

こうした風土の調査は、地域に暮らす市民とともに地域の自然と人間の関係のこれまでを知ることに当たる。そして、そこから地域の持続可能なあり方を考えてゆくことが可能となる。また、ある専門分野の中で行われる地域研究とは違い、調べる対象は自然から社会、文化まで幅広く、それ

ら風土の要素を分析し、要素の間の関係を調べた結果を総合・統合することで風土の成り立ちが読み解けてゆくため、地域の実像を浮かび上がらせることに結びつき得る。

このように、持続可能なまちづくりに市民と行政が共同で取り組む際に依って立つ基盤と考えられる風土性調査として、本調査は実施することとした。

3 地域での各種調査

令和5年5月24日から8月14日までを調査期間として、踏査（現地調査）、簡易社会調査2種（聞き取り調査、アンケート調査）、文献調査を組み合わせで行った。以下に、概要を示す。

3-1 踏査

大谷南部地区及びその周辺で踏査を行い、後述する文献調査を適宜組み合わせて、調査地区の地理や動植物の生態、地域の歴史や民俗に関する情報を収集し、地理的条件が土地利用、都市環境・田園環境それぞれの市街地・集落の構成にどのように生かされ、建築物や土木構造物の形態等にどう影響しているのか調査した。また、これらと地域の人々の生活や生業との関係性や、どのように地域の産業や文化等を生みだし発展させ、現在の風土形成にいたっているかについて調査を行った。

踏査は、必要に応じて市担当者と業務受託者が共同で実施した。

I 調査の趣旨と調査概要

3-2 簡易社会調査1 ― 地域の聞き取り調査

当該地区の将来のまちづくりに資するキーパーソンを対象に、グループインタビューとして聞き取り調査を行った。

とともに、市民・企業・市民団体・行政等各主体に「田園環境都市おやま」を浸透させて各種取り組みの深化を図るための基礎資料として、本報告書を作成した。

3-3 簡易社会調査2 ― アンケート調査

現地調査と聞き取り調査をもとに、調査地区在住の市民が知る情報等をさらに少しでも多く集めることと、「田園環境都市おやま」の具現化に向けた取り組みの周知を目的として、地域の現状や課題それらに対する意見等を尋ねるアンケート調査を行った。

3-4 文献調査

各調査に必要な情報収集のため、当該地区に関連する各種文献について調査を行った。なお、市は業務受託者へ市史や調査対象地区に関する資料を貸与もした。

4 調査報告

風土性調査の結果を調査地区在住の市民に伝える報告発表を下記日程、会場において行った。

- ・ 日程 令和5年8月28日(月) 18:00-19:30
- ・ 会場 小山市健康医療介護総合支援センター
研修室

5 田園環境都市おやまビジョン基礎資料の作成

上記4で行った報告と当日の質疑応答の結果を踏まえて、「田園環境都市おやま」を具現化させる

Ⅱ 踏査および文献調査による報告

1 大谷南部地区の概況

大谷南部地区の位置、面積、人口と沿革

大谷南部地区は、小山市中央部の南側、宝木台地の上に位置する。大谷地区は全体に、明治 22 年（1889）の町村制施行に際し中久喜、犬塚、土塔、泉崎、横倉、横倉新田、雨ヶ谷、雨ヶ谷新田、向原新田、田間、塚崎、武井、野田、泉新田の 14 村が合併した大谷村をもととする。地区の面積 30.39km²は市の面積の約 17.7%を、人口 43,700 人は市の人口の約 26.1%を占めている（令和 3 年 4 月 1 日現在。「令和 3 年度版小山市統計年報」より）。

大谷南部地区では、近世の塚崎村が大字塚崎に、野田村が大字東野田と大字南和泉、武井村が大字武井として現在に至る。また、大字東野田は、東野田東、東野田西、高松、六軒、荒井原の 5 つの自治会区に分かれ、塚崎、南和泉、武井と合わせて 8 つの自治会区から当地区は成り立つ。

地形と地名

大谷地区が立地する宝木台地の上は、南にゆるく傾斜している。台地上の各所に集まった水は、この傾斜に沿って流れながら幅 200~300m の南北にのびる浅い谷を刻んだ。大谷地区の東西にはそれぞれ西仁連川（江川）と大川がつくる谷があり、「大谷」の地名はこうした地形からつけられたと考えられている。

宝木台地自体が、今から約 258 年前から 1 万 1700 年前にかけての完新世と呼ばれる時代に、川の流れに運ばれた土砂が積もってできたものである。その後、約 2 万年前の地球がきわめて寒冷になり広い範囲に氷河が発達した時期に海面が下が

り、陸と海の高低差が大きくなったことで川が地表を削る力が強くなり、現在の思川低地と鬼怒川低地がつくられ、その間が削り残されて宝木台地となった。

加えて、宝木台地は火山の噴火から地表にもたらされる火山灰などに覆われてもいる。そのように川に運ばれた土砂や火山灰が重なる中を地下水が流れ、台地の上で湧き出し、浅い谷をつくっている。こうした条件から塚崎遺跡（塚崎）、金山遺跡（東野田）で旧石器時代の遺物が見つかるなど古くから人が住んだ形跡がある他、鏡田遺跡に平安時代の製鉄炉跡、金山遺跡に鍛冶関連遺構、橋向遺跡に 9 世紀中頃の鍛冶工房跡が遺るなど、古代の金属工業に関した遺構の集中が特徴的である。

田園環境の基本構成と現在

大谷南部地区は、全域が市街化調整区域に指定される。台地上の尾根に集落、寺社、畑地、果樹園、平地林、谷に溜池、水田のある田園環境が保たれ、食料安全保障、生物多様性保全、低炭素化などの環境機能、公益的機能を有するが、住民の高齢化等から農地の維持が困難になりつつある。

集落は、いずれも軸となる道路に沿ってその両側または片側に民家が列状に並んだ形態を呈し、六軒自治会区ではこのように民家が沿う道路が口の字型につながって畑地を囲むことで、外部にやわらかく閉じつつ内部が集落の共有空間のように感じられる地域環境がかたちづけられている。そして、これらの集落を結ぶ道路が通される。このうち新 4 号国道に接続する栃木県道（主要地方道）54 号明野間々田線とこれにつながる同（一般県道）294 号東野田古河線は交通量が比較的多く、大型自動車が通行する時間帯があり、生活環境に大きく影響を及ぼしている。

2 地域の自然について

本調査における風土の定義

風土とは、
地域の自然に
人間が暮らしと生業を通して
働きかけてかたちづくられる、
人々が生きる環境のことをいいます。

園田稔編『神道』弘文堂、1988年、総372頁

アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』那須壽監訳、筑摩書房、2015年、総634頁

図1 風土の定義

実際に地域を見て歩く踏査と、地域について書かれた書籍や論文に学ぶ文献調査を組み合わせ、地域の風土性について調査を行った。この調査は、はじめに「地域の自然について」、次に「地域の自然への人の働きかけについて」、続いてそのようにかたちづくられた「地域と人々の心身の結びつき」について、そして「景観から読みとれるその他のこと」を調べて記述する流れで実施した。

以下、その結果を市民への視覚的な説明にも用いられるようにスライドショーとして整理したものを、順に掲載する。なお、図1には再び風土の定義を示した。

出典 | 園田稔編『神道』(弘文堂、1988年、総372頁)。アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』(那須壽監訳、筑摩書房、2015年、総634頁)

地域の自然について

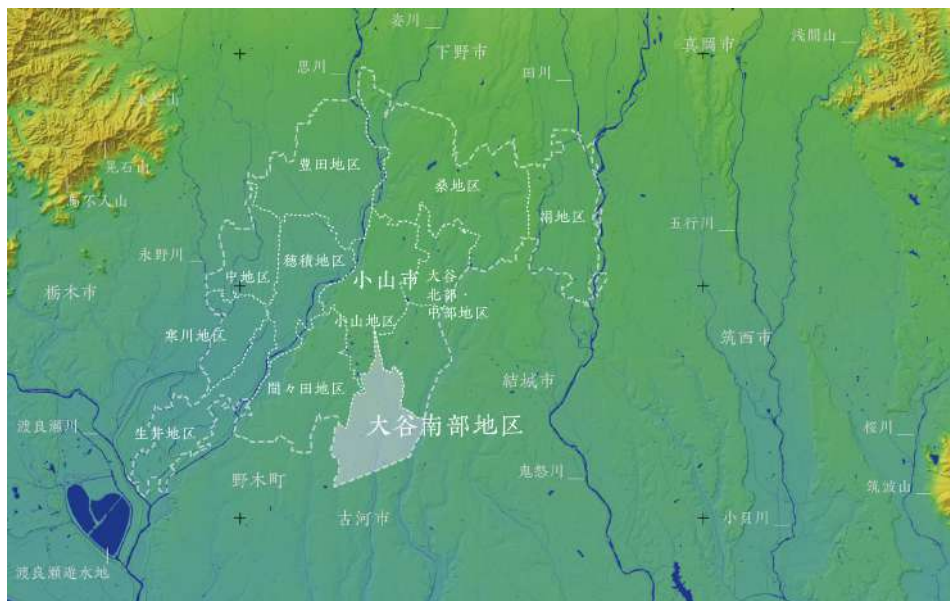
「平安時代末期の10世紀頃から、
下野国^{しもやまのくに}小山庄の東側一帯は、
『大谷郷』と呼ばれていたと考えられる」。

出典：大谷地区わがまち元気発掘事業推進協議会編『大谷郷土誌』発行同左、2015年、6頁

大谷の地名の由来についての一つの説と、
地形の関係を見ていきます。

図2 「大谷」の地名は、平安時代末期には用いられていたと考えられる

出典 | 大谷地区わがまち元気発掘推進協議会編『大谷郷土誌』発行同左、2015年、6頁



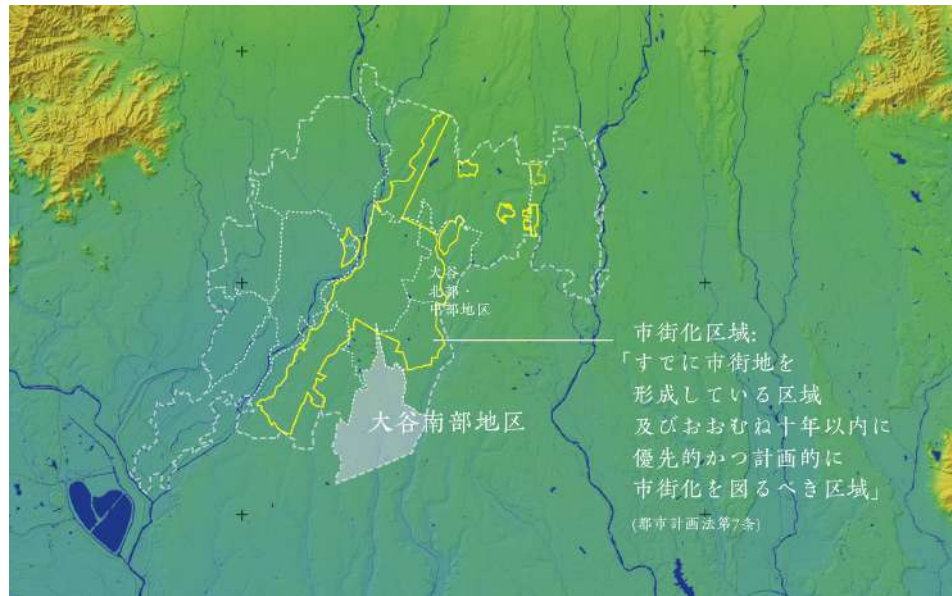
合併以前の旧町村の区分に基づく小山市内の11地区を示す | 出典：国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (版権改定 2023)

大谷南部地区は、小山市中央部の南側に。

図3 小山市の地区区分と大谷南部地区の位置

市域は、旧町村の区分に基づいて11地区に分けられ、当地区はその中央部南側に位置する。

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



小山市の市街化区域と大谷北部・中部地区の位置関係を確認する | 出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023)

大谷南部地区は、全域が市街化調整区域に。

出典: 総務省 | e-GOV | 参考計画法 <https://class.e-gov.go.jp/document/facility-343AC000000100> (2022-12-09 参照)

図4 小山市の市街化区域（図中の黄色い囲み）と当地区の位置関係を確認する。

大谷南部地区は、全域が市街化調整区域に指定される。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023 年)



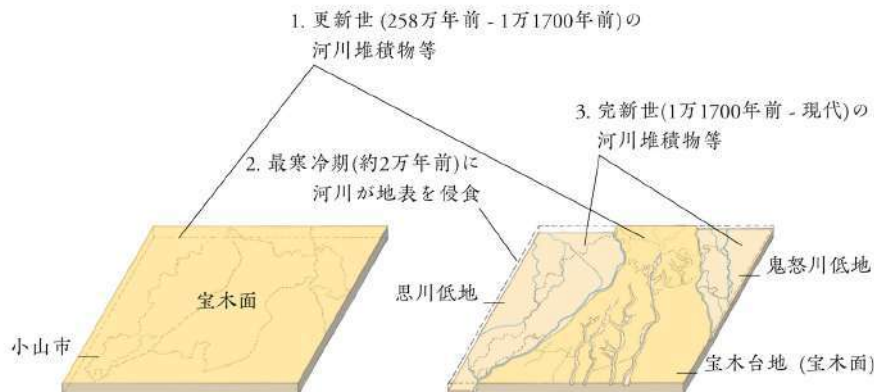
出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023)

二つの河川低地の間の宝木台地の上に位置します。

図5 小山市域の大きな地形区分を見る。当地区は宝木台地の上に位置する。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023 年)

II 踏査および文献調査による報告



台地上での侵食谷の発達過程を表わした概念図 (廣瀬 2023)

思川と鬼怒川に削り残された宝木面の上でも、
雨水がより低い箇所へと流れつつ谷を刻みました。

参照: 田辺晋「関東平野中央部における沖積層の基盤地形」『地質学雑誌』127 (10)、2021年、635-648頁

図6 台地上での侵食谷の発達過程を表わした概念図 (廣瀬 2023 年)

参照 | 田辺晋「関東平野中央部における沖積層の基盤地形」『地質学雑誌』127 (10)、2021 年、635-648 頁

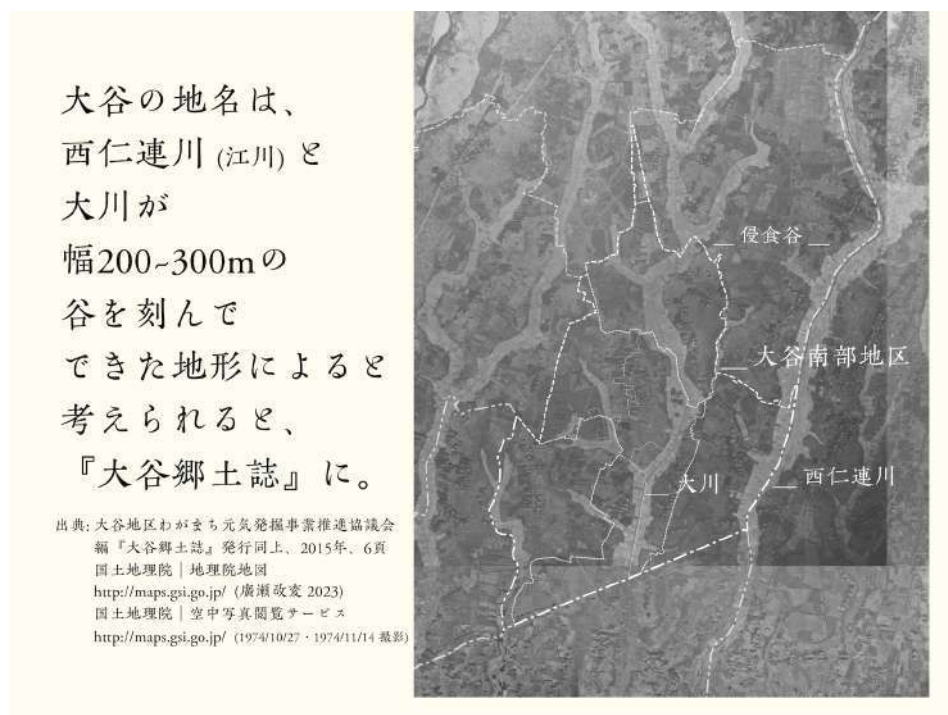


図7 空中写真 (1974 年撮影) を用いて当地区の地形を見る。色の薄い樹枝状の箇所が谷。

出典 | 国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023 年)

大谷地区わがまち元気発掘推進協議会編『大谷郷土誌』発行同左、2015 年、6 頁

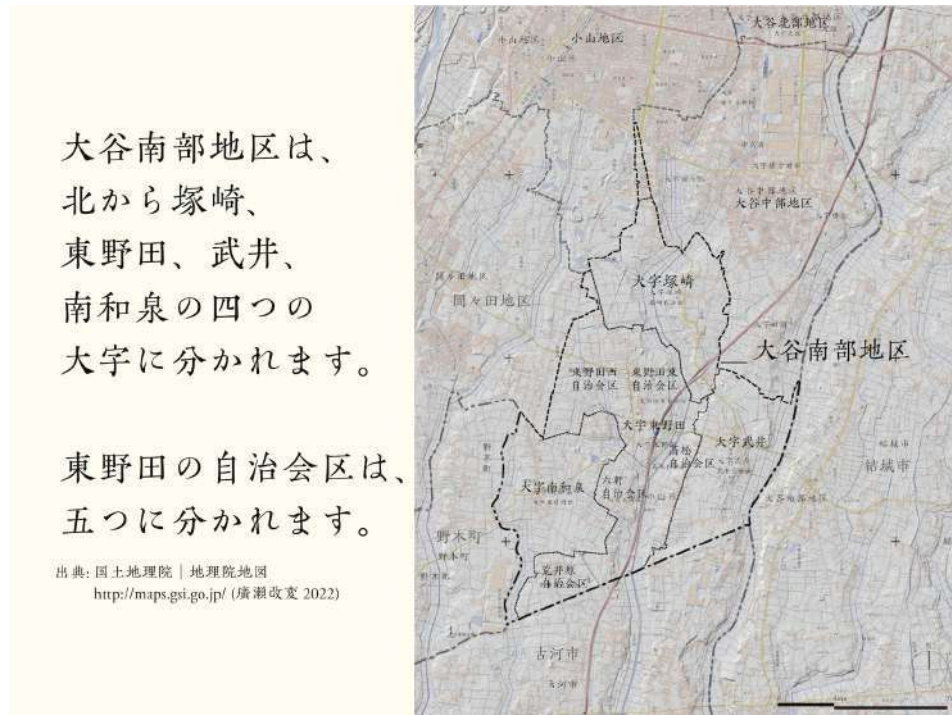


図8 大谷南部地区の範囲（図中の太い点線）と大字、自治会区の分布を見る。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/>（廣瀬改変 2023年）

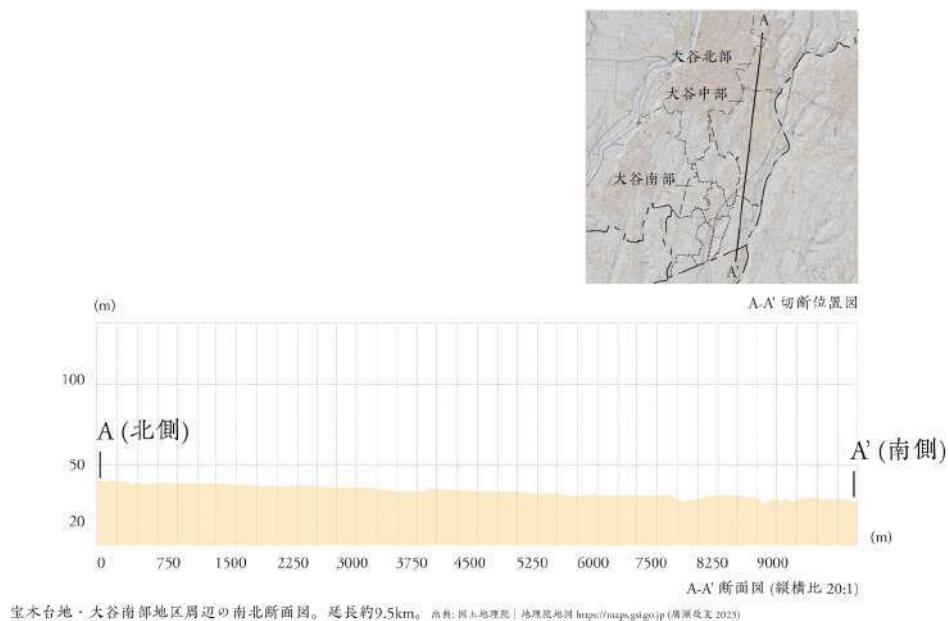


図9 明治期の低湿地の分布図に地区の範囲を重ねる。谷底には主に水田がつけられた。

出典 | 大谷地区わがまち元気発掘事業推進協議会編『大谷郷土誌』発行同左、2015年、6頁

国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/>（廣瀬改変 2023年）

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



「台地面は南にゆるく傾斜し」全域的に日照に恵まれます。

参照: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I』小山市、1984年、10頁

図 10 宝木台地・大谷南部地区周辺の南北断面図。延長約 9.5 km。

出典 | 大谷地区わがまち元気発掘事業推進協議会編『大谷郷土誌』発行同左、2015 年、6 頁

国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023 年)

地域の自然について

台地は、
火山噴火によって地表にもたらされる
大小の破片状の物質、
火山灰や火山礫などに覆われてもいます。

約3.2万年前の赤城火山の爆発から形成された
鹿沼土 (鹿沼降下軽石) もその中に含まれます。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代・中世』小山市、1984年、7-10 頁

図 11 台地は、火山灰などに覆われてもいる。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代・中世』小山市、1984 年、7-10 頁

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



六軒自治会区、東野田。2023/06/07

東野田 (六軒自治会区)、御霊神社社地の
一角にある湧水池。水は、大川に合流する。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代・中世』小山市、1984年、7-10、31-32頁

図 12 台地上の湧水は谷をつくり、湧水池の付近には神社が祀られてきた。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代・中世』小山市、1984 年、7-10、31-32 頁



図 13 栃木県の表層地質と河川流域、およその地下水流動系の重なりを見る

出典 | 栃木県小山市年開発部区画整理課編『犬塚土地区画整理事業 竣工記念誌』小山市、1998 年、74 頁
地質図 Navi <https://gbank.gsj.jp> (廣瀬改定 2020 年)

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



図 14 当地区で湧出する地下水流動系の上流域に当たる釜川および中禅寺湖を見る

出典 | 栃木県小山市都市開発部区画整理課編 「犬塚土地区画整理事業 竣工記念誌」小山市、1998 年、74 頁



高松自治会区を南流する大川。高松自治会区、東野田。2023/06/07

「石橋から国分寺へ下った分流水は、更に、
結城方面と小山方面へ分かれているという」。

出典: 栃木県小山市都市開発部区画整理課編 「犬塚土地区画整理事業 竣工記念誌」小山市、1998 年、74 頁

図 15 高松自治会区を南流する大川。大字東野田。2023/06/07

写真の大川が流れる台地上の谷は、西仁連川が流れる谷と共に「大谷」地名の由来と考えられている。

Ⅱ 踏査および文献調査による報告

図 13-15 に抜粋して引用した文章を通して読めるよう、以下にまとめて引用する。

「台地には、数多くの湧き水点が見られる。豊かな地下水が噴出、清水となり湧水池となっている。丘陵地帯を流れる河川は、降水量の 60%が河川を流れる水、10%が地下水、30%は蒸発するという」。

「栃木県水理地質学的研究によると、今市扇状地-宇都宮へ流れ下った地下水は宇都宮付近の釜川、宝木用水の河川などに涵養されながら上三川工業団地に流れ、そこで下館方面と石橋方面へ分流し、石橋から国分寺へ下った分流水は、更に、結城方面と小山方面へ分かれているという。『小山市地史環境調査報告書（その 1）〔小山の地質及び思川自然環境〕小山市教育委員会発行より』」。

この二つの段落は、下記「犬塚土地区画整理事業 竣工記念誌」の「犬塚の十景観—犬塚公園の湧き水」の項に、区画整理に際して市民が保存運動を展開した結果守られた金山神社裏の湧き水について説明するために書かれたものである。大谷北部・中部地区に関する記述であるが、上記の地下水とそれにも由来する水路の下流域に大谷南部地区は位置するため、参考として引用する。

出典 | 栃木県小山市都市開発部区画整理課編 「犬塚土地区画整理事業 竣工記念誌」小山市、1998 年、74 頁

3 地域の自然への人の働きかけについて

「金山遺跡は、
旧石器時代から中世・
近世まで続く複合遺跡」
「規模が1000×400m」

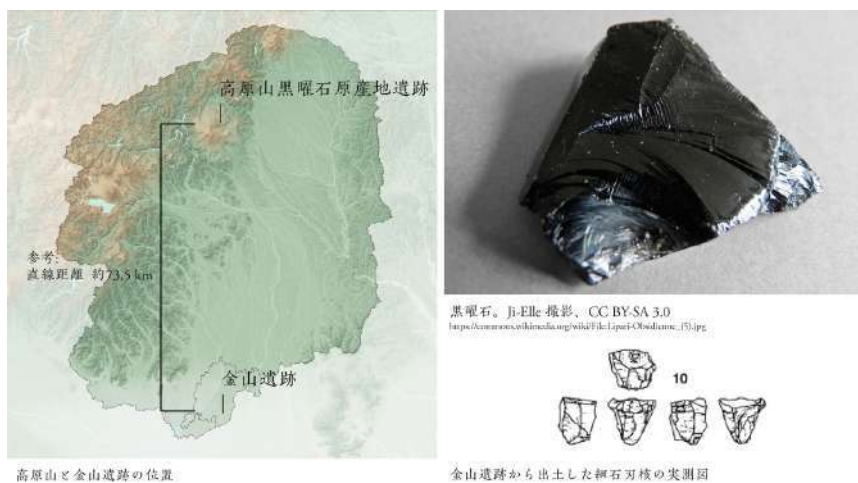
同遺跡の近隣では、
八幡根東遺跡、
塚崎遺跡で旧石器時代の
遺物が見つかっている。

出典: とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター編
『栃木県埋蔵文化財調査報告第380集 金山遺跡
(第2・第3次調査)』栃木県教育委員会、2016年、
4、30頁 <http://doi.org/10.24484/sitereports.71690>



図 16 金山遺跡 (東野田)、塚崎遺跡 (塚崎) では旧石器時代の遺物が発見されている。

出典 | とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター編『栃木県埋蔵文化財調査報告第380集 金山遺跡 (第2・第3次調査)』
栃木県教育委員会、2016 年、4、30 頁 <http://doi.org/10.24484/sitereports.71690>



金山遺跡で出土した細石刃核は、
高原山産黒曜石と推定されます。
(細石刃核は、細石刃をはぎ取った後に残る石核)

出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023)、田村隆・国武貞克・大屋道則「栃木県高原山黒曜石原産地遺跡群の発見とその評価」『日本考古学』13 (22)、2006 年、152 頁

図 17 金山遺跡では、高原山産と推定される黒曜石が出土している。

出典 | 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023)、田村隆・国武貞克・大屋道則「栃木県高原山黒曜石原産地遺跡群の発見とその評価」『日本考古学』13 (22)、2006 年、152 頁

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



侵食谷（直近の谷頭は約3km北、野木町川田地内に位置）を通される水路と周囲につくられた水田。南和泉。2021/09/16

「小山は、思川の西岸地域や(中略)鬼怒川との中間
地帯に数多く見られる開析谷など、いたるところに
農耕活動に適した土地が開け、

出典：原 宏『小山の歴史—ひとと まちの あゆみ』随想舎、2023年、16頁

図 18 侵食谷を通される水路と周囲につくられた水田。大字南和泉。2021/09/16

出典 | 原 宏『小山の歴史—ひとと まちの あゆみ』随想舎、2023 年、16 頁



栃木県道54号の通る地形の高まりから、水田がつくられた大川の支谷へ下りる。東野田西自治会区、東野田。2023/06/19

耕作に絶好の立地（後略）」。

出典：原 宏『小山の歴史—ひとと まちの あゆみ』随想舎、2023年、16頁

図 19 。県道 54 号西側の集落内道路から大川の支谷を見る。大字東野田。2023/06/19

出典 | 原 宏『小山の歴史—ひとと まちの あゆみ』随想舎、2023 年、16 頁

II 踏査および文献調査による報告



金山遺跡と近隣の遺跡の位置。2021/05/04

出典: 国土地理院 | 地図・空中写真閲覧サービス <https://maps.gsi.go.jp/>

古代には製鉄が。「大川や西仁連川を通じて
周辺から集められた材料を用いて多くの鉄が生産」

出典: とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター前掲書、同「埋蔵文化財センターだより」2020年3月号、6頁

図 20 金山遺跡と近隣の橋向遺跡、鏡田遺跡、塚崎遺跡の位置。

出典 | とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター前掲書、同「埋蔵文化財センターだより」2020年3月号、6頁
国土地理院 | 地図・空中写真閲覧サービス <https://maps.gsi.go.jp/>



橋本県道 (主要地方道) 54号明野間々田線南側の地区中心部を写す。武井。2023/06/07

たいおとろろ

「古代、貴族または豪族が土着して大廈高樓 (中略) を
構えて、それが地名の因をなしたと推察 (中略)
関係があるとされるのが、古代における金属工業」

出典: 菅間久男『小山市の地名由来と歴史』随想舎、2006年、98頁

図 21 県道 54 号南側の大字武井中心部。2023/06/07

出典 | 菅間久男『小山市の地名由来と歴史』随想舎、2006年、98頁

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



地区中心部の北西角から見た六軒自治会区。東野田。2023/06/07

「六軒の入植からきたとのことであつた。ただし、六軒とも鍛冶屋だったらしい。近くに小字で金山が(中略)鍛冶場からの鉄クズを捨てた所という」

出典: 菅間久男『小山市の地名由来と歴史』随想舎、2006年、96頁

図 22 六軒自治会区中心部。口の字型に並ぶ家屋が畑地を囲む。大字東野田。2023/06/07

出典 | 菅間久男『小山市の地名由来と歴史』随想舎、2006年、96頁



栃木県道54号明野間々田線の西側に平行する道路と侵食谷を、北から南を見て写す。東野田西自治会区。東野田。2023/06/07

「野田の語源(中略)怒田、沼田と同音で、ノダ・ヌタとも読み、湿地・沼地のこと(中略)『日本古代地名事典』は、原野を開発して田地にした所もいうと」

出典: 菅間久男『小山市の地名由来と歴史』随想舎、2006年、95頁

図 23 県道 54 号の西側に平行する道路と谷。東野田西自治会区。大字東野田。2023/06/07

出典 | 菅間久男『小山市の地名由来と歴史』随想舎、2006年、95頁

II 踏査および文献調査による報告



出典: 国土地理院 | 地理院地図 <https://maps.gsi.go.jp/>

塚崎の「地名は、多数の塚(古墳群)を西の方から眺めて、塚の崎の地」というのが起こりと、伊勢神宮で神官を務めた神官、佐八家の文書に。

出典: 菅間久男『小山市の地名由来と歴史』随想舎、2006年、86頁。佐八文書は、小山氏が後白河院に寄進した小山荘が伊勢神宮に寄進されて寒河御厨となったことと関係すると考えられる

図 24 塚崎の地名は、多数の塚(古墳)の存在に由来するという。

出典 | 菅間久男『小山市の地名由来と歴史』随想舎、2006年、86頁。佐八文書は、小山氏が後白河院に寄進した小山荘が伊勢神宮に寄進されて寒河御厨となったことと関係すると考えられる



「西塚崎」から谷ごしに「東塚崎」を見る。塚崎。2023/06/06



「東塚崎」、求川神社社叢林西側から大川が流れる侵食谷ごしに「西塚崎」を見る。塚崎。2023/02/19

「東塚崎の台地部分が谷津に突き出ている形状から」

「多数の塚」は古墳群を指す。東塚崎・西塚崎の地名は天文5年(1536)の「佐八文書」が初見。天文23年(1554)の「足利義氏充行状」には「塚崎」とある。出典: 菅間久男『小山市の地名由来と歴史』随想舎、2006年、86頁

図 25 地名由来と東・西塚崎の名が、天文5年(1536)の「佐八文書」に書かれる。

出典 | 菅間前掲書、86頁。天文23年(1554)の「足利義氏充行状」には東西を合わせた「塚崎」地名のみが載るとある



図 26 享保 13 年 (1728) 年建立の石碑に刻まれた「泉新田」の文字。神明宮、南和泉。
2023/06/06。

出典 | 菅間久男『小山市の地名由来と歴史』随想舎、2006 年、97 頁

村名	年代	品種
大行寺	元禄8年5月	ころこ △みのかいちゅう しもかふり
下国府塚	正徳5年8月	こじこ かミ弥六 ざんき
石ノ上	正徳5年9月	北国 △美濃 △びぜん 三ツみね餅 霜かふり餅
野田	享保5年8月	かるこ △みの △びぜん ねちこひへ から餅
武井	享保10年9月	ころこ △びぜん △赤もち
卒島	(享保11年)	○永楽 小国 水くくり △美濃 えいのこ ほか

18世紀初頭の明細帳よりみた作付品種。出典:小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 II』小山市、1986年、143頁

○は早稲、△は晩稲(無印は中稲)。晩稲になるに従い
収穫は上がるが台風の影響を受けやすい。また、
田植えと刈り取りの時期に労働が集中するため、
各品種の適当な比率での作付けが望ましかった。

出典:小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1986年、193-194頁

図 27 18 世紀初頭の明細帳よりみた作付品種。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1986 年、143、193-194 頁

村名	年代	作物
中島	元禄9年3月	稲 大麦 小麦 大豆 小豆 稗 粟 大角豆 ^{ささげ} 綿 里芋 菜種
飯塚	正徳2年7月	稲 大麦 小麦 大豆 小豆 稗 粟 大角豆 綿 里芋 菜種
間々田	明和元年9月	稲 大麦 小麦 大豆 小豆 稗 粟 大角豆 綿 里芋 菜種
野田	享保5年8月	稲 大麦 小麦 大豆 小豆 稗 粟 大角豆 綿 里芋 菜種
武井	享保10年9月	稲 大麦 小麦 大豆 小豆 稗 粟 大角豆 綿 里芋 菜種
黒本	延享元年9月	稲 大麦 小麦 大豆 小豆 稗 粟 大角豆 綿 里芋 菜種
大行寺	元禄8年5月	稲 大麦 小麦 大豆 小豆 稗 粟 大角豆 綿 里芋 菜種
下国府塚	正徳5年8月	稲 大麦 小麦 大豆 小豆 稗 粟 大角豆 綿 里芋 菜種
石ノ上	正徳5年9月	稲 大麦 小麦 大豆 小豆 稗 粟 大角豆 綿 里芋 菜種
白鳥	慶応元年8月	稲 大麦 小麦 大豆 小豆 稗 粟 大角豆 綿 里芋 菜種

江戸中後期の播種量の記録からわかる主な作物

「第18表 田圃播種量(反に付)」(濃田改定 2023)。資料:小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1986年、193-196頁

図 28 江戸中後期の野田村では稲と大麦、武田村では大麦の播種が記録されている。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1986年、143-144頁

地域の自然への人の働きかけについて

「元禄8年(1695)の大行寺村の明細帳には、
春作に小麦・大麦、夏作に大豆・小豆・粟・
稗^{ひえ}・芋・木綿・もろこし・大角豆^{ささげ}・瓜などを
作ったという記録があり、
ほかの村でもほぼ同様であった」。

出典:小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1986年、143-144頁

図 29 台地上の尾根と谷を擁する大谷南部地区で、今日では一層多様な作物が育てられる。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1986年、143-144頁

II 踏査および文献調査による報告



「武井村・千駄塚村などでは茶を余業として作った」

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1986年、194頁

図 30 武井村では茶を余業として作った記録が残る。小規模の茶垣は地区各所で見られる。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1986 年、194 頁



「市域の中・東部台地では、畑作農業を中心に製茶・干びょうなどの加工商品作物の比重も高かった」。前世紀に産業構造は変化。しかし、食料生産が継続

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、1054頁

図 31 写真は、2023 年 6 月 7 日から 25 日にかけて地区各所で撮影した果樹、野菜等。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987 年、1054 頁

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



トウモロコシが育てられる畑ごしに大谷南小学校を望む。東野田東自治会区、東野田。2023/06/19

植物は、枯れると土壌中の有機炭素の元、腐植に。
「土づくりを通して管理できる農地土壌は、二酸化炭素の大きな吸収源として注目されています」

出典：長野県ウェブサイト | 農業試験場 | 「安全な農産物の供給・農地土壌の変遷」に関する試験研究 <https://www.pref.nagano.lg.jp/nogyoshiken/naiyo/kankyo/engiroment.html> (2023-08-21参照)

図 32 農地の土壌が炭素を吸収し、低炭素化に貢献する環境機能、公益的機能について

出典 | 長野県ウェブサイト | 農業試験場 | 「安全な農産物の供給・農地土壌の変遷」に関する試験研究

<https://www.pref.nagano.lg.jp/nogyoshiken/naiyo/kankyo/engiroment.html> (2023-08-21 参照)



薬師堂東側の水田ごしにトウモロコシ畑、大谷南小学校を望む。東野田東自治会区、東野田。2023/06/19

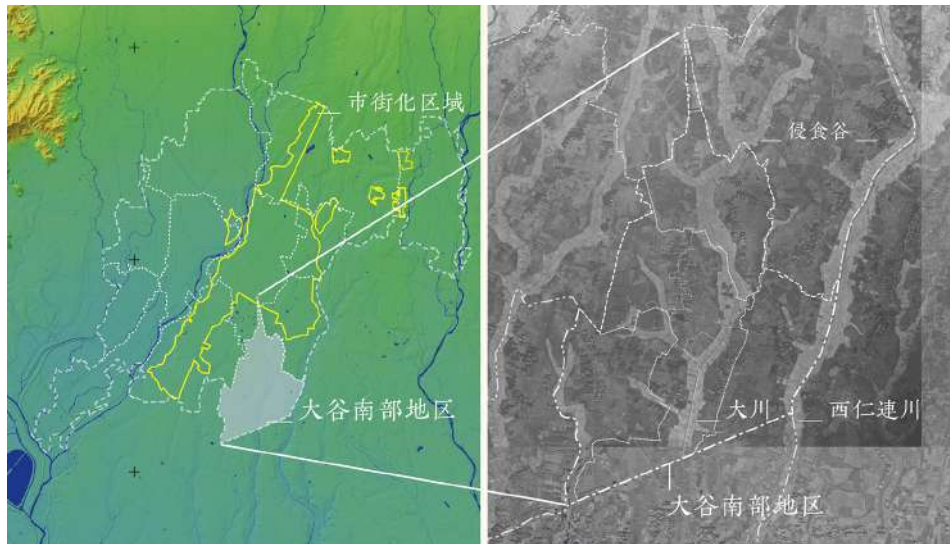
畑への施肥によって土壌が窒素過多となる場合が。
しかし、茶園のある台地の下の低地水田で
窒素が大気中に飛散されたとの報告があり、参考に

出典：林健太郎・江口定夫・柴田英昭・仁科一哉・内田義崇「食の持続性と低環境負荷の両立を目指す窒素管理研究への土壌学の貢献」『日本土壌肥科学雑誌』88 (2): 2017年、166-179頁

図 33 畑への施肥による栄養過多は、下流側に水田がある場合緩和される可能性がある。

出典 | 林健太郎・江口定夫・柴田英昭・仁科一哉・内田義崇「食の持続性と低環境負荷の両立を目指す窒素管理研究への土壌学の貢献」『日本土壌肥科学雑誌』88 (2): 2017 年、166-179 頁

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



金山遺跡と近隣の遺跡の位置。2021/05/04 (空中写真は1974/10/27・1974/11/14撮影)

台地上の高台で畑地、谷で水田を営む当地区は、
気候危機の影響緩和ほかに貢献を。支える必要が。

出典: 国土地理院 | 地理院地図 (左図)、地図・空中写真閲覧サービス (右図) <https://mapps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023)

図 34 当地区の地形と水系を生かした土地利用は、都市環境に対しても公益をもたらす。

出典 | 国土地理院 | 地理院地図 (左図)、地図・空中写真閲覧サービス (右図) <https://mapps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023)



耕作が行われていない農地の例。大谷南部地区。2023/06/06

「何年か後にはさらに農業従事者が減ってしまい、
それまで農業が副次的に担ってきた自然環境保全が
出来なくなるのではという懸念を抱いています」。

出典: 小山市総合政策部田園環境都市推進課「小山市大谷南部地区風土性調査: アンケート調査集計報告」、小山市、2023年、24頁

図 35 地区の人々は、そうした農業を継承する困難さが改善されない状況を危惧する。

出典 | 小山市総合政策部田園環境都市推進課「小山市大谷南部地区風土性調査: アンケート調査集計報告」、小山市、2023年、24頁

4 地域と人々の心身の結びつき



図 36 地区各所の神社。古代、中世に創建された神社が残る。

出典 | 大谷地区わがまち元気発掘事業推進協議会編『大谷郷土誌』発行同上、2015 年、53 頁



図 37 南和泉と市内他地区の辻固めその他

出典 | 小山子ども森 | 辻固め <http://www3.oyama-tcg.ed.jp/~shimonamai/kotyositu/tuji.html> (2023-08-21 参照)、小山市史編さん委員会編『小山市史 民俗編』小山市、1988 年、522 頁



図 38 南和泉（写真左）と武井（同右）に見る集落の中心拠点の位置と空間構成

南和泉自治会区では、山口寺境内に接して農協倉庫と共に集落センターが置かれる。武井自治会区では、グラウンド、農協倉庫と合わせて集落センターが設けられる。塚崎自治会区では氷川神社境内に、東野田の各自治会区では野田神社に接して、それぞれ公民館と集落センターがある。また、大字東野田に含まれる六軒自治会区では、公民館単独で整備がされているが駐車場を広場的に用いることが可能である。

これらは、建物と広場を対で備えた地域コミュニティの中心拠点としての機能を持つ。ただし、アンケート調査の回答には、「地区には公園が少ない」（37 頁）、「園施設の遊具を少しずつでいいから、増やしてほしい」（43 頁）、「文化芸術活動がもっと盛んになって（後略）」（38 頁）といった意見が見られる。今後、各自治会区ひいては小山南部地区をよりよくしてゆくためにビジョンおよび地区まちづくりを考えるうえでのヒントとなるのではないかな。

出典 | 小山市総合政策部田園環境都市推進課「小山市大谷南部地区風土性調査：アンケート調査集計報告」、小山市、2023 年、37、38、43 頁

5 景観から読みとれるその他のこと

『大谷郷土誌』で、昭和8年と平成24-25年にそれぞれ行われた生物調査の結果が比較されています。

カイツブリの生息は、平成24-25年には確認されていません。

出典:大谷地区わがまち元気発掘事業推進協議会編『大谷郷土誌』発行同左、2015年、30頁

昭和8年(1933年)	平成24～25年
脊椎動物門	
食肉目	
イタチ・テン・ムジナ	イタチ・タヌキ
グツシ目	
ネズミ・ノネズミ	
食虫目	
モグラ	モグラ
翼手目	
イエコウモリ	イエコウモリ
ウサギ目	
ノウサギ	ノウサギ
鳥綱タカ目	
トビ・ハヤブサ・チョウゲンボウ	トビ
フクロウ目	
フクロウ・ミミズク	
キツツキ目	
アカガラ・カッコー・ホトトギス	アカガラ・コガラ
スズメ目	
アオジ・アカハラ・ウグイス・オナガ	シロハラ・ウグイス
カラス・カケス・コガラ・ヤマガラ	ツカラス・ハシロ
スズメ・メジロ・ホオジロ・シジュウ	ヤマガラ・スズメ
カラ・ゴジュウカラ・セキレイ・ツグミ	シジュウカラ・セキレイ
ミ・サンコウチョウ・ムクドリ・ヒヨドリ	セキレイ・ツグミ
モズ・ヒワ・ミソサザイ	リ・ヒバリ・モズ
カイツブリ目	
カイツブリ	
チドリ目	
クシギ・ヤマシギ・タゲリ・ムナグロ	タゲリ

図 39 小型の水鳥カイツブリの生息は、地区での最近の調査では報告されていなかった。

出典 | 大谷地区わがまち元気発掘事業推進協議会編『大谷郷土誌』発行同左、2015 年、30 頁



図 40 しかし、2023 年 7 月 14 日に市民の一人が武井溜で見、撮影を行った。

出典 | 大谷地区わがまち元気発掘事業推進協議会編『大谷郷土誌』発行同左、2015 年、30 頁

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



「各学校の名木」に数えられた大谷南小学校のダイオウショウ(左図・左上)と現在。2023/06/19

樹木は「情操を養い理科教育にも大きな役割を」。
「中には学校の名木として広く知られているもの」も

出典: 小山市教育研究所『小山の自然と社会』小山市教育委員会、1965年、142頁

図 41 「各学校の名木」に数えられた大谷南小学校のダイオウショウ。2023/06/19

出典 | 小山市教育研究所『小山の自然と社会』小山市教育委員会、1965 年、142 頁



大谷南小学校(左)と県道54号。その奥に新4号国道。東野田東自治会区、東野田。2023/06/19

ただし、同小脇の県道54号については、問題が。
「交通渋滞、朝の4号線、大谷南小付近」
「新4号が近いので、大型車がだいたい入り込み」危険。

出典: 小山市総合政策部田園環境都市推進課「小山市大谷南部地区風土性調査: アンケート調査集計報告」、小山市、2023年、26頁

図 42 大谷南小学校(左)と県道54号。その奥に新4号国道。東野田。2023/06/19

出典 | 小山市総合政策部田園環境都市推進課「小山市大谷南部地区風土性調査: アンケート調査集計報告」、小山市、2023 年、26 頁

Ⅱ 踏査および文献調査による報告



平地林に廃棄物が不法投棄された例。大谷南部地区。2023/06/06 農業用水路の魚影。種名不詳。大谷南部地区。2021/09/16

「田、畑、川、山へのごみのポイ捨て、不法投棄がひどすぎる」。アンケート調査より。
「孫と小川へ行くと魚を捕る。本当に嬉しそう」。
インタビューより。 実例写真を載せて調査報告を補足します。

出典: 小山市総合政策部田園環境都市推進課「小山市大谷南部地区風土性調査: アンケート調査集計報告」、小山市、2023年、27頁

図 43 平地林への不法投棄の例（2023/06/06）と水路の豊かな生物の量（2021/09/16）

出典 | 小山市総合政策部田園環境都市推進課「小山市大谷南部地区風土性調査: アンケート調査集計報告」、小山市、2023 年、27 頁



地区中心部の北西角から見た六軒自治会区、東野田。2023/06/07 レッチワース田園都市、2011

「都市環境も田園環境もどちらも大切ですが、
どちらかに偏ってしまうことがとても心配で (中略)
バランスよく調和のとれた発展を (後略)」。
写真左のような民家、集落が、英国・田園都市 (同右) の参考に。

出典: 小山市総合政策部田園環境都市推進課「小山市大谷南部地区風土性調査: アンケート調査集計報告」、小山市、2023年、24頁
Source: <https://whitechapeljack.com/the-whitechapel-murders/mary-jane-kelly/>, Photo: Christopher Hilton CC BY-SA 2.0

図 44 六軒自治会区の民家と菜園のある庭、畑の連なり (写真左)。英国の田園都市 (同右)

出典 | 小山市総合政策部田園環境都市推進課「小山市大谷南部地区風土性調査: アンケート調査集計報告」、小山市、2023 年、24 頁

<https://whitechapeljack.com/the-whitechapel-murders/mary-jane-kelly/>, Photo: Christopher Hilton CC BY-SA 2.0

Ⅲ 簡易社会調査による報告

1 目的と実施概要

1-1 目的について

大谷南部地区で暮らす人々の生活や意識をできる限り実情に近いところで把握すること。特に、過去と現在の生業や生活の様子、地域をどのように認識しているか、大谷南部地区で暮らしながら、大切に守っていききたい地域の宝や、逆に解消したい困りごとなどについて、どのような考えを抱いているかなどについての把握を試みる。また、それらの関係性を読み解くことで、大谷南部地区および小山市域全体での田園環境都市おやまビジョンの手がかりを得ることを目的とする。

1-2 実施概要について

令和5年5月から令和5年7月にかけて、下記の2種類の簡易社会調査を行った。

①座談会形式のグループインタビュー

②自治会加入全世帯を対象としたアンケート

自治会への説明や広報周知は下記の通り。

- ・4月25日：自治会長会議の後に時間をいただき説明会を実施（大谷公民館にて10時より）
- ・広報おやま5月号の回覧時に：田園環境都市推進課より「風土性調査に入る」ことの説明と周知

1-3 座談会形式のグループインタビューについて

(1) 特に考慮したこと

アンケート調査では、本調査で立てた目的達成

頃考えていること」「伝えたいこと」「語りたいこと」に沿っているかどうかが重要になる。そこでグループインタビューを先行して行い、そこで語られたことをもとに、アンケートの質問における選択肢を設定することを基本としている。しかし、今回は、年度初めの実施であり、先行してグループインタビューを設定することが難しく、代わりに、4月25日の自治会長を対象とした説明会において、地区での困りごとや大切に守りたいものなどについてご意見を聞かせていただいた。

(2) 実施時期と対象者について

次の3つのグループで実施した。

①子育て世代の皆様：5月29日

小学生・中学生・高校生のお子さんがある家庭から、男性3名、女性3名の計6名が参加

②農業従事者の皆様：6月6日

30代から70代の専業農家の方、男性5名、女性1名の計6名が参加。

③自治会長の皆様：6月7日

現在、自治会長を勤めている方から出席可能な方、60代70代の5名が参加。

(3) 全ての聞き取りにおいて、共通の質問内容

- ①自己紹介として～大谷南部地区とのご縁、仕事や地域での活動、生活圏について
- ②地区の昔と今。変わったこと変わらないこと
- ③地区で暮らすなかで感じる、解消したい困り事
- ④地区の大切に守り、未来につなぎたいもの
- ⑤都市部と田園部は、これからどんな関係を築いていくと良いか等、これからの小山市のまちづくりへの意見

以上に加えて、それぞれのグループの特性に即した質問（子どもたちの帰宅後や休日の過ごし方、

農業の今と昔、など)を加えて聞き取りを行った。

1-4 アンケート調査について

(1) アンケート調査（紙の調査票）

大谷公民館、大谷南部地区自治会にご協力をいただき、紙の質問票によるアンケートを下記のような方法とスケジュールで実施した。

広報周知

- ・ 4月25日：自治会長の皆様への説明会で、スケジュールの相談。ご意見をいただき決定。
- ・ 広報おやま6月号の広報回覧時に、アンケート調査実施のお知らせを回覧

配布

- ・ 5月24日：ワンタッチ封筒に質問票と依頼書を入れ、自治会（および班）ごとに仕分けしたものを大谷公民館に納品
- ・ 6月の広報回覧とともに、各戸に配布していた

回収

- ・ 6月20日までに各戸から班長へ提出
- ・ 6月24日までに班長は自治会長へ提出
- ・ 6月28日までに自治会長は公民館へ提出

(2) インターネット回答

紙の調査票でのアンケートと並行して、グーグルフォームを利用したインターネットでの調査も行った。

告知については、大谷南部地区在住者のみの回答とするために、ウェブやSNSなどで不特定多数に向けた案内はせず、自治会の回覧及び、調査票とともに封入する依頼書にQRコードとともに「2人目以降からの回答について各世帯におきまして、紙のアンケートにご回答された方以外にもご協力いただける方は、右のQRコードよりスマートフォンやパソコンからのご回答いただけます」と記載した。

(3) 回答数/回答率について

- ・ 紙の調査票による回答：517
調査票での回収率：70.5%
(733戸中517戸からの回答)
- ・ インターネット回答：4
- ・ 合計521件の回答

集計結果を、「小山市大谷南部地区アンケート調査 集計結果報告書」にまとめ別添資料とした。

2 結果整理の手法について

グループインタビューにおいては、下記の3種の記録を作成し、③を本報告書に掲載している。

- ①書き起こしデータの作成
- ②個人情報を残した形で、座談会の時系列に発言内容をまとめたもの
- ③個人情報を抜き、発言内容を、時系列ではなく、いくつかのテーマやトピックごとに編集した記録。発言内容に関連した史実や、少し曖昧な記憶に基づく参加者の話を裏付ける記録などを、脚註の形で、各種文献から転載し補足する。

アンケート調査については、単純集計と、主要な質問において属性との相関をみるクロス集計を行った。概要版を次章の調査結果に掲載し、全データは、別添資料（アンケート調査集計結果報告書）に掲載する。

グループインタビューと、アンケートの結果については、個々の検証に加えて、得られた情報の関連性などを読み解き、ビジョン策定に向けた報告会やワークショップなどの基礎資料として活用していく。

3 各調査の結果報告

3-1 グループインタビューの記録

この章ではグループインタビューで行った聞き取りの成果を、開催順に掲載する。初めに、語られたことを概観するために各回記録の見出し一覧を掲載し、次に各調査で語られた内容を掲載する。

1 | 子育て世代の方々

- 1 : 大谷南部地区との関わりと現在の概況
- 2 : 大谷南部地区の子育て環境
 - 生徒数の減少と部活の問題
 - 中学校への進学
- 3 : 遊ぶ場所と、放課後の子どもたちの様子
- 4 : 子どもを取り巻く地域の環境
- 5 : 農業・農地の変化
- 6 : 地域での困りごとと、大切にしたいこと
- 7 : 高齢者との関係
- 8 : 祭りやイベントなど
- 9 : 未来に残したいもの、30年後のイメージ

2 | 農業従事者の方々

- 1 : 農業との関わりや大谷南部地区の農業の概況
- 2 : 経営上の課題
- 3 : 農業を継いだ理由
- 4 : カンピョウ栽培について
- 5 : 販路や栽培品目について
- 6 : 耕作放棄された農地の現状
- 7 : 農業のこれから
- 8 : 地区で守っていききたいこと

3 | 自治会リーダーの方々

- 1 : 地区との関わりや地域活動、生活圏など
- 2 : 地区の農業の現状と、これからについて
 - 人口減少と後継者・担い手不足の実情
 - 遊休農地の借り手
 - 農業と工業団地
- 3 : 地区の課題と、これからの可能性
 - 農業
 - 粗大ゴミ廃棄やポイ捨て
 - 空き家と獣害
 - ヤードとソーラーパネル
- 4 : 30年後の大谷南部地区と小山市

1 | 子育て世代の方々

参加者：6名（男性3名、女性3名）。男性は、大谷南部地区生まれ2名、他地区から移り住んだ1名。女性は結婚で大谷南部へ移り住んだ方々。農業従事者が3名。

実施：2023年5月29日 18時～19時30分

場所：小山市健康医療介護総合支援センター

1：大谷南部地区との関わりと現在の概況

◎専業農家で米と野菜をつくり、PTA役員をやっている。以前は、消防団もやっていたが卒業した。普段の生活圏としては、専業農家なのであまり遠出することなく近くで済ませている。そのことに家族からの不満は特にない。

◎東城南から農業をやるために移住して、米と野菜をつくっている。消防団もやっていたが卒業。生活圏は、出かけると言っても、イオン、ハーベストくらい。中学生と高校生の子どもがいて、それぞれの活動に合わせての送迎もあり、仕事もあるので、土日休めない。

◎小山駅の近くに住んでいたが、結婚のため大谷南部へ。職場は間々田駅の近くで、子どもは小山駅近くの保育園に預けているので、自宅、間々田、小山駅周辺あたりが生活圏。

◎結婚して栃木市から移り住んだ。農家の夫の手伝いをしている。お米、レタス、トマトをつくる。農家の休みはそんなにないので、たまに休めるときは県外へも出かける。

◎大谷南部は、米と野菜の両方を作る農家が多い。露地と施設の組み合わせも。

◎大谷南部で生まれ育ち、一度市外へ出て、子どもが小学校に上がる時に戻ってきた。自治会、育成会で活動している。

◎栃木市の藤岡出身。結婚で大谷南部に来た。職場は結城市なので、生活圏は、大谷～結城。

2：大谷南部地区の子育て環境

●生徒数の減少と部活の問題

◎大谷南小は、今、1学年1クラスだけになった。40代の自分が子どもの頃は、同級生が70人いて2クラスあった。今は、全校生徒が70人から80人の間で推移している。

◎野球部も人数が足りないので、大谷東小と合同でチーム編成をしている。

◎サッカーも大谷南小には部活がなく、大谷東小へ。

◎サッカーは、中学に行くと部活か外でやるかの選択になる。うちは大平へ通っている。

◎部活ではないが、子どもはダンスの習い事をしていて、いくつかを見学して子どもの希望で栃木市のスクールに決めた。土日はお稽古ごとや部活の送迎がある

◎子どもの数が少なくて、近隣ではお稽古ごとや部活が減っている。少し遠くへ通うのは、親の送迎が大変になるが、自分たちで決めたことなので、そこまで苦にはならない。

◎外に出ることによって、市外のお友達ができたりするので、そういう面では、地区から外へ出るのも子どもたちにとってもいいと思うこともある。世界が広がる。

◎送迎はあるけど、行った先での友達が増えるので、そういう面ではいいと思う。

◎ただ、学校が終わってから送るとなると、女性の場合は、夕食の準備もあるし、他も兄弟のこともあるし。もう少し近いところであれば、もっといろいろ動けるのと思う時はある。

●中学校への進学

◎大谷中は、1学年5クラスか6クラス。大谷東小から9割、残り1割が大谷南小と東城南小から。大谷東小は栃木県でも子どもの数が多い方。いろんな子がいる。

◎クラス替えを経験しないまま中学生になった

長女が、入学説明会の時に、クラス替えというものがあるということを初めて知ってプレッシャーになっていた。

◎中学では、大谷南小の子どもが一人にならないように、クラス替えの時などに先生が配慮してくれる。

◎大谷南小、今年の1年生は20人と増えている。6年生は10人で、その間の学年は15人前後。最近、大谷南地区も、人口が微増……。南和泉は、家が増えてきていると感じる。コロナ禍で、都市部から郊外へ移り住む人もいるのだと思う。

3：遊ぶ場所と、放課後の子どもたちの様子

◎外遊びをしない。テレビやゲームが多い。

◎近所の家が遠い。友達の家も遠い。

◎友達と遊ぶにも親の送迎が必要になるが、親も働いている家が多いので、結局、子どもは家でテレビやゲームで遊ぶことが多い。

◎散歩に行くと言って、近くでザリガニ釣りをしていることもある。

◎学校からの帰りが遅い時、高学年の子と遊びながら帰ってきたこともある。

◎大人や社会が、子どもたちが自由にやりたいところに遊びに行けない環境を作ってきてしまっている。

◎公園のような、子どもが一人でも行ける遊び場がない。

◎大谷南小は、放課後に門が閉まるから、学校で遊ぶというわけに行かない。大谷東小は門が開いていて自由に遊んでいる。

◎自分たちが子どもの頃は、下校して、近所の空き地に自然と集まって野球をやっていた。今は、保護者が一緒でないとどこにも行けない。

◎南部地区は公園がないので、公園に遊びに行くにも少し遠くの公園に車で行かなくちゃいけない。本当に遊ぶところがない。誰かの家に行

くとしても、車の送迎が必要。昔は、空き地で自然と集まって野球していたという話も出たが、そんな空き地もどんどん減ってきている。

◎人が使わなくなったり、子どもが遊ばなくなったりすると、どんどん草も入ってきて、あっという間に草ぼうぼうになる。

◎公民館わきのグラウンドは、今も整備している。昔は地区に野球チームがあって、練習していた。

◎自分たちが子どもの頃は、どこの地区にも駄菓子も売っているような小さな商店があって、一回、家に帰ってから、そこに集まって、いつも子どもが溜まっていた。大谷南小の脇にもあった。アライという名前で、15,6年くらい前に閉じた。大谷東小の近くにはまだある。

4：子どもを取り巻く地域の環境

◎通学路も歩道がほとんどない。そこを車がビュンビュン通る。新4号を含むエリアであり、そこを横断もするので、危ない。

◎子どもには「危ないから一人で出歩かないように」と言わざるを得ない。子どもたちも自由にできない。

◎良い面としては、大谷南小は、子どもたちに挨拶を奨励しているので、道であった大人に挨拶ができるし、おじいちゃん、おばあちゃんも、外に出ている時は、学校の登下校の時に、子どもたちを見守ってくれているようだ。地域に育ててもらっていると思う。

◎昔と比べて、地区内の車の通りがとても増えている。トラックも多い。

◎新4号から降りた車で、間々田や野木方面に行く車の抜け道になっている。

◎朝の通勤時間帯に、大谷南小の前の道が（横断歩道もあるので）渋滞する。

◎県道294は、やっと車がすれ違えるかどうかという道の細さだが、トラックやトレーラーも

入ってくる。曲がり切れないで、交通の妨げになっていたこともある。そこは、古河と小山の抜け道にもなっていて、おじいちゃんたちの話では、昔は市のバスが通っていたそうで、その影響があるから、ナビがこの細い道を指定するのではないか。何回か、警察や議員さんに掛け合ったが、いろんな事情で、なかなか道路の拡幅ができないようだ。

5：農業・農地の変化

◎塚崎は、遊休農地が増えてきている。水田は基盤整備してあるので、どこも使い続けているが、耕作しなくなった畑の小さい面積のところは、借りたい人も敬遠するので。

◎武井は、今のところ、遊休農地、耕作放棄地も無い。続けられない人や亡くなった人の田んぼなどは、空くと、茨城の農業法人が借りにくる。まとまった土地があると効率が良いので使う人がいる。

◎農地管理は、兼業で勤めている人は週末にやるしかない。休みがなくて大変。

◎地区内で、ソーラーパネルも少しずつ増えている。

◎平地林などの持ち主の照会など、どこで情報を得ているのか、ソーラーパネルの営業の電話も来るようになった。

◎一緒に住んでいた祖母が亡くなってから、畑をやらなくなってしまった。祖父も働いているので。今後、その畑をどうしていくか、そこが頭がいたいところ。

◎自分たちの代になった時の不安はやっぱりある。今と同じように保てるかな、とか。宅地にできるとかできないとか、地区的な縛りもあるので、そういう不安もある。

6：地域での困りごとと、大切にしたいこと

◎困りごととは、消防団の人材不足。大谷南部地区全体で1つの消防団。年代は20代から40代後半と幅広く30人前後が在籍。5年間勤めると退職報償金がもらえるので、5年経ったら、まだ20代でも辞める人も多い。

◎人口が少ない地区では、小学校の役員も消防団も役割が必ず回ってくる。そういうのが嫌で、他の地区に転出してしまう人がいる。

◎同居の家でも、若い1世帯だけ、外に出てアパートに住み、農作業にこっちに通う、などのケースもある。

◎その反面、役員などをやることで、人が少ない分、お互いに協力しようという気持ちになるし、主体的に動くことも増えて、満足感を得られることも多い。南部地区は、まとまりがあると思う。そこは大切にしたいところ。

7：高齢者との関係

◎災害時の高齢者のケアが心配。ただ、人のつながりがあるので、大丈夫とも思う。

◎良くも悪くも、地域の情報が飛び交っているところ。その中でお年寄りに「子どもたちが見守られている」と感じる。だから、災害があった時は、お年寄りを気かけよう！という気持ちになる。

◎三世帯家族も多い。お年寄りにとって、子どもや孫と一緒に住むこと、近くに住むことが「生きがい」になっていると感じる。子どもの面倒を見てもらったり、送迎をしなきゃいけないとか、頼ってしまうが、それも張り合いになっているように思う。

◎農業をやっていないなくても、家庭菜園などで動いている人も多い。

◎専業農家だが、子どもの送迎などもあるので週末は農業を休むようにしている。例えば、子どもの野球の送迎があると親に伝えると、孫のためと考えて、自分の代わりに農作業をやって

いてくれる。やはり、孫の成長は、張り合いになっていると思う。

8：祭りやイベントなど

◎武井は、子どものお囃子や夏祭りは、コロナ禍で止まったまま。

◎塚崎は、コロナ前から次第に、祭りなどはなくなっていた。野田も昔は盛んだったが。

◎南和泉は、公民館で露店の屋台なども来て盆踊りをやっている。コロナで止まったが、復活できるかどうかわからない。

◎南和泉は、環境保全事業で、さつまいもの苗植え、生き物調査、夏休みの平日に育成会で、遊園地やボーリングなどに出かける。子どもたちが交流する機会として大切にしている。

◎武井は、生き物調査のみを続けている。育成会旅行は途絶えてしまった

9：未来に残したいもの、30年後のイメージ

◎子どもの数が減っても、小学校は残したい。子どもたちだけではなく、地区の人々を結んでいる大切な学校。

◎地区の農業を守って残したいかどうかは難しい。子どもには継がせたくない。理由は、税金がかかるし、必要な支出が多く、お金がかかりすぎる割には、それほど売れない。結果、収入は減少。田植えなど、イベント的な時には、子どもも興味を持つが、休みがない状況に子どもたちは関心を持たない。

◎子どもの将来は、子どもが決めればよいと思うが、2人のうちどちらか一人には地元に残って欲しい。

◎本音では、子どものうちの誰かは近くにいて欲しい。これから子どもが減っていく中で、魅力が感じられる地区にしていけないと行けないと思う。

◎自分も一度だけ都内で就職して外に出て、その経験も良かったので、子どもたちには、一度、市や県から出て、広く世界を見て欲しいと思う。

◎子どもを育てる環境としては、小山や栃木県は、都会より伸び伸びと子育てができていいと思う。都会の核家族では、接する人や世代が限られる。今、南部地区の子どもたちは、お年寄りに優しくできる子が多いと思うが、それは、やっぱり、地域の近所の人たちも、子どもたちの成長を喜んで見守ってくれているのを、子どもたちもわかっているからだと思う。

◎そんな経験を、将来、子どもたちにもして欲しいし、ここで暮らすのもいいことあるよ、メリットあるよ、と、伝えたい。

◎子どもたちは、将来は家の近くに住むと言っている。自然が多くて、お年寄りも優しいし、顔が見える関係があるのが、住みやすいと感じているようだ。ただ、もう少し子どもが増えたほうがいいと思うし、新しく家を立てることへの法律的な縛りがあるので、そこも改善できると良い。

◎今回のグループインタビューのように、急な話があっても、すぐに集まってくれる協力的なところも地区の良さ。不便なところもあるが、程よい、のどかな環境、地域でのふれあいなど、子どもが育つには良い環境だと思う。

◎30年後は、自分たちも高齢者になる。バスもなく不便なところで暮らしていけるかの不安はある。若い人が田園地帯に、高齢者が都市部に住めるようになれば良いのでは？

◎開発の行き過ぎも良くないが、人が減らない程度の、ほどよい開発が進むと良いのでは。

2 | 農業従事者の方々

参加者：6名（男性5名、女性1名。30代～70代）。

進学や就職で地区外へ出て、Uターンして家業の農業を継いだ方々や退職後に実家の農業を継いだ方など。

実施：2023年6月6日 18時～19時30分

場所：小山市健康医療介護総合支援センター

1：農業との関わりや大谷南部地区の農業の概況

◎家が農家。高校卒業後にいったん就職で茨城へ移ったが、5、6年前に戻り、農業を継いでいる。

◎いろんな仕事を経験したのちに、家の農業をついでいる。消防団も活動している。生活圏は小山市内、たまにイオンに行く。

◎千葉の農業系の大学へ進学し、農業系の企業（ハウス栽培）で研修を受け、その後、実家に戻り農業を継いでいる。主に稲作とレタス栽培。

◎県境に住んでいて、買い物などは間々田が生活圏。時々、ハーベストやイオンへも行く。他の地区も、自分が生まれ育った地区も、良さがわからない。比べられない。

◎高校卒業後、7年間会社務めをしていた。実家の農業を継いで28年目になる。

◎実家が小規模農業をやっている、自分は仕事をやめて（退職）から継いだ。野菜など、スキマ的な農業。後継者不足問題から、2022年4月に5人で農業法人を設立。ねぎ、カボチャ、さつまいもをつくっている。

◎水田は少なく、畑作が中心。

◎桑地区と絹地区も畑が多いと聞いている。桑地区は、大根や人参、根菜が多いのかな。

◎東京の商圏・大消費地に近いので、良い野菜を作れば、売れる商品になる。やればなんとかなるところではあると思っている。

◎塚崎は、2022年に圃場整備がやっと完了したということもあって、畑より水田が基本的に多い。高齢になって田んぼを辞める人が多いので、そこを借りて耕作面積を広げている。

◎畑も田んぼも、若い世代が後を継いでいるところはいいが、高齢者だけで先細りの農家は多いと思う。先がなかなか暗いというか・・・。

◎野菜が中心なので、けっこう体がきつい。年間を通して、毎日、何かしらやることがある。

◎休みがない、というのは、農業者みんなに共通の悩み。

2：経営上の課題

◎ハウスでトマト栽培をやっているようなところだと、年間を通して手間仕事があるので、人を雇おうと思えば雇える。しかし、露地栽培は、仕事のレベルや仕事量が、月によって変動があり、人を雇いにくい。家族の手を借りるしかなく、家族経営からなかなか抜けられない。

◎田んぼだと、田植えの時は忙しいけど、8月とかはちょっと暇。ばらつきがある。

◎極力、月に1回は休みの日を作りたいと思って、頑張っているが、結局、夏などは特に収穫に追われると休めない。

◎今日は収穫だけでいいかと思っていても、結局、畑は、いろいろやることが出てきちゃう。田んぼだと、田んぼの水回りのことをして、そのあとは休みにできる時もある。

◎家族以外の人に頼むとしても、年間を通しての依頼はできない。早めにわかれば1週間ぐらい前に頼んでおいて・・・。時間給がちょっと高いけど、もうしょうがないから頼もうと思って電話してお願いすることもある。

◎規模拡大は、人を雇うことに直結するが、大谷南部の畑は規模拡大が難しい。水田のように整備されておらず、住宅地などに混じって、点在しており、集積と言っても効率が悪い。集積された水

田は機械化できるが、畑はできず、人手がいる。

◎なかなか自分で考える計画通りにいかない。

◎住宅地だけではなく、墓地も点在していて、その中に畑がある地区も。

◎区画の境界のウツギが邪魔だったりもする。

◎収支の面でも課題が多い。他の業種と違って、農業は毎月コンスタントに入金があるわけではないから、資金繰りが難しい。機械を買う時も大金の資金繰りが必要になる。人を雇うと給料を払わないといけない。

◎生井の農業法人は、ブランド米「生井っ子」を使った揚げ餅や煎餅の製造を始めたと聞いている。

◎今後は「六次産業化」で、生産から加工までやって、農産物販売の収入がない時でも、自分で作った加工品の収入が入るようにしていく必要がある。

3：農業を継いだ理由

◎うちの場合は、子供があとを継ぐことにはなっている。今は、農業関係ではあるが、他の産業で働いていて、休みのときに農作業を手伝ってくれるくらい。農業はどちらかと言えば辛いし、お金もなかなか入ってこないが、息子に「お母さん、いつも笑ってニコニコしながらやっていたよね」と言われてことがある。その息子はいろんな経緯や姉からの助言もあって、農業大学校で学び、農業を継ぐと決めてくれた。

◎親が、いつも大変だ大変だとばかり言っている、子どもは誰もあとを継いでくれない。

◎今は、農業だけでなく、まちなかの商店街などでも同じような後継者問題が起きているのではないか。

◎自分は後継者として農業を継いだ、農家の長男だから、継ぐのが当然と考えて、選択肢がこれしかなかったという感じです。

◎会社勤めは苦手。家の農業を継ぐ前は、病院の

夜間受付の仕事や県立高校の技術職員などもやっていた。気分的には、親と考え方が合えば、農業の方が楽だと思う。親と考えが合わないとか、親と仲が悪い人にとっては、苦痛でしかないかもしれない。

◎同じ自営業として起業するにしても、家の農業を継ぐ場合は基本的な環境が整っているのでスタートアップとして楽だと思う。

◎親との関係では、少し上の年代だと、当たり前みたいにあとを継ぐルールを敷かれて「農家の跡取りなんだから勤めに行っちゃだめ」ということもある。その代わり、ある程度は農業機械も買ってもらえたりした。

◎高校の頃、進路選択をする段階になって、農業もいいかなと思い始めて、県外の農業系の大学に進んだ。実際にやってみて、基本的に全責任が、良かれ悪しかれ自分にあると思うと、気が楽。肉体的に疲れるが、精神的には楽。卒業後、すぐに実家に帰ったわけではなく、教授から「親から教われないことを、一度、会社に入って学んでみては？」と勧められて、ハウス系の会社で研修に入っていた。

◎自分の場合は、青果市場に勤めていたが、長男が結婚して家を出たので、次男の自分が勤めを辞めてあとを継いだ。子供の頃は、カンピョウの収穫などを手伝っていたが、嫌ではなかった。農業は、気苦労も多い勤めに比べて、自由な時間も自分次第で作れるし、気が楽だと思う。

4：カンピョウ栽培について

◎昔は、どこの家も、おそらく地区の7割くらいは、カンピョウ（ユウガオ）をつくっていた。南部の方が、北部・中部より多かった。タバコもつくっていて、昔は小山に専売公社があった。

◎レタスやメロンなどが入ってきたのは、昭和40年代になってからだったと思う。それまではつくっていない。

◎カンピョウは、一番の現金収入だった。子どもたちも、カンピョウ干しとか、どこの家でも手伝わされていた。

◎剥いて、2,3日で出荷できて、すぐ換金できた。労働力がないと作れないが。

◎アラブ系の人がカンピョウを良く買う。

◎今は、上三川、石橋、壬生でつくっている。

◎カンピョウづくりが廃れたのは、勤めに出たりする人が増えたりして、人手が足りなくなったからだと思う。そして、ちょうど、その頃、野菜作りも南部で普及し始めて、そちらの方が、収入が良いからと切り替える農家が増えた。

5：販路や栽培品目について

◎農家によって、出荷する市場や農協の選び方がある。

◎市場に出せば、八百屋さんや他の市場へ。農協に出せば、市場、青果場、直売所へ。また農協から東京へも出されて、そこから地方へと動く。

◎栃木の市場ではなく、茨城の市場に出している。

◎茨城から北海道への経路もある。

◎栽培品目は、農家それぞれだが、自分は多品目で作ろうとすると整理が追いつかないので、米とレタスに絞っている。

◎保険としてレタスを契約栽培して、他にも少し・・・。

◎年間を通して 40 品目くらい。同じものばかり作るのは自分の場合、飽きてしまうので、売れるものは優先して続けて、他にいろいろやってみる。同じ野菜で、品種が誓うものをいくつか作っている。カボチャは、坊ちゃん、コリンキーなど3種類ほどつくっている。レタスは、6年くらい前の早魁のとき、1箱 18000 円という値がついたことがあった。地方の市場の価格の上下は激しい。

6：耕作放棄された農地の現状

◎高松（開墾した歴史がある）などで耕作しなくなった農地は、茨城（結城）の個人や法人が借りに来て、白菜などをつくっている。

◎塚崎は畑の圃場整備の話も進んでいる。現地権者で振り分けても 1/5 は余ってしまうので、古河の法人に貸す前提で進めている。

◎八千代からは、法人に雇われていると思うが、中国人も多く通ってきている。

◎茨城の人たちも、次の代も継続するかどうかはわからないと話している。

◎そういう現状から考えると、30 年後は、地区外の人が多く入ってきて農業をして、山（平地林）は、切り開かれて、ヤードや太陽光パネルだらけになってしまうかもしれない。

◎実際、ヤード（自動車などの解体場、置き場）になっているところが増えている。中古のトラックがたくさん置かれている。中東の人が買いにきているようだ。

◎荒井原地区に多い。

◎山（平地林）は、昔は、堆肥にするために落ち葉を集める場所だった。カンピョウにも使った。今は、荒れたところが多く、震災でさらに荒れた。太陽光パネルも増えている。

◎昔は山も、親から子へ譲渡して、世襲で守ってきた。今とこれからは、組織的に動かないと、維持していけないと思う。

7：農業のこれから

◎何を考えて農業をやっていくのか、ということが大切だと思う。収入を増やすことを目指すなら、組織化してかっちりやっていくべきだし、面白いかどうかを目指すなら、とりあえず、暮らしていければいいやということになると思うし。人口減に対して大規模農業は成り立つのか、先細りになってしまうんじゃないか、とか、考える視点がいい

ろいろある。

◎食料自給率が低いから、そこを上げていかないといけない。一般の人もやらないと、小山市も日本も食べていけなくなってしまうと思う。

◎政治も、その時だけ政治家がバーンとやって、あとは農業は知らんぷり。生かさず、殺さず・・・。

◎衣食住の中でも、やっぱり食が一番大事。

◎何をやるにしてもお金がいる。次の手が、打てない。トラクター1000万。それを買って作ったからと言って、すぐに売り上げて跳ね返ってくるわけでは無い。だから、米作りは、大きくやらないと割りに合わない。

◎大規模でできる北海道でも温暖化で米が作れるようになったし、どこで何を作れば良いかという基準みたいなものも今後、変わってくる可能性もある。

◎北海道で美味しいお米が取れるんなら、こっちはもうお米は諦めて、違う野菜とかを作った方がいいのかもしれない。その辺でまだ踏ん切りがつかない部分もある。

◎野菜の場合は、採れる時期が、南から北へと移り変わっていくのを繰り返すけど、米は、そのシーズンだけやったら、終わり。2回は作れない。南なら2毛作できうるだろうけど。

◎米は、安くしか売れないし、だったら諦めてもいいのかなと思う。

◎「米1俵がいくらで売れるんだったら、みんなは農家をやるかな？」って、聞いたことがあって、2万円だった時期(1995年)を知っているから、2万円以上で売れないとやらないよね、という話になった。

◎米は、他の野菜や施設でやる農業に比べて、新規でやるハードルが高い。新しく、田んぼでやっていきますという新規の人には、国の方でも補助とかあるけど、少ないですね。米にこんなにお金かけるんだったら、栃木だったら、イチゴとかの施設農業にかけた方がいいってなる。

◎県は、田んぼで野菜を作りましょうと推奨して

いる。残念だが・・・。地目が田んぼのところで野菜を作るなら、補助金出しますよ、という制度がつくられている。^{註1}

◎県が勧める農産物にも流行がある。今はイチゴだが、その前、3、4年前は、トマト栽培の大規模化が流行った。自分もトマト施設で研修していたので、就農したらトマト栽培も考えたが、最初に必要な施設への投資額が大きく断念した。あの当時の単価のままだったらやっていけたかもしれないが。

◎今、トマトは熊本が強い。全国的にトマト農家を増やそうと、どんどん動きがあったので、栃木のトマト農家の生産がストップしても全国的に流通する量はあまり変わらないと言われている。

◎全国的にトマト栽培が増えて収量が上がると単価が下がる。イチゴにしても、今の単価だったらやっていけるとしても、これから先は、どうなるかわからない。

◎イチゴも、県は、とちあいを薦めている。どんどん新しいものを作っていくと・・・。

◎トマトなど、自分で売り先を探して、農協に頼らずセブンイレブンに卸している人もいる。

◎自動販売機のような仕組みで販売している人もいる。

◎農協は、支所によって、全量の出荷を求めているところと、半分くらいでも良いというところがある。後者であれば、自分で販売先を開拓できる。ただ、そういうケースが増えると農協のブランドも揺らいでくるから、価格などの変化との関係性で変わっていく面もあると思う。

◎自分はやっていないので、施設栽培へ憧れみたいなものもある。レタス栽培をやっているが、当たり前だが、上(空中)には作れないので、畑の面積で作る量は限られる。だから、流行りすたりがなく、年間を通して価格の変動が少ない、それが畑で野菜をやることのメリットかもしれない。レタスは工場で栽培する動きもあって、それはそれでニッチな付加価値がつくかもしれないが、将

来、そのニーズが1番になるかというところでもないと思う。

◎畑で野菜を作るのは、全国的に見ると、九州から北海道まで、四季の変化があって、産地リレーがあって、それで成り立っている。2月から6月で小山のレタスは終わったけど、これから高原レタスが9月から11月くらいに出てくる。そのあと、また、ここのレタスも出荷できる。

◎ここは、春と秋と、2作できるメリットがある。冬もあまり寒くなければ、トンネル掛けしておけば、1月後半からレタスも採れる。長野とかだと冬場は作れないが、ここでは、2月から6月、そして9月から11月に、レタスが採れる。だからレタスだけやっていても結構仕事がある。

◎農地の回転率がいい。

◎ここの農業は、器用貧乏なところはあると思う。何を作ってもそれなりに・・・。

◎これから高齢化で辞める人がさらに増えてくる。その時に、成形のいい土地は、他の借り手に使ってもらえるけど、小さい畑をどう使い方が、課題。そこをうまく活用できるようになると良い。

◎畑の違いもある。くっつけて農地を広げても、採れるところ、採れないところに別れてしまう。本人の力。年功序列でない。

註1：平成30年～栃木県農政部の説明資料

水田を活用して露地野菜の導入・生産拡大する際の支援制度

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g54/h30/documents/jyoseiseido.pdf>

水田に路地野菜を導入して所得向上を！

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g05/kouzou/documents/18panfu.pdf>

8：地区で守っていききたいこと

◎農業が継承される、農業をしやすい環境づくりをしていかないといけない。例えば、自分の子

もに農業をやらせたいかどうかといえ、やっぱり自分が楽しく農業をやっていないといけないと思う。子どもに負担かけるから、大変だからやらせたくないというふうになってきた時に、そうではなくて、逆に、子どもに「他の仕事やってみる。うちで働くより稼いでみる」と、言えるくらい経営が安定でくるような環境づくりができれば、やめないで済むし、続けられる。

◎やりようによっては、可能性ありますね。他の業種よりも。本人の力だと思う。

◎年を重ねるごとに、サラリーマンのように年収あがっていくわけでもないし・・・

◎いやいや、会社員もこの30年、給料はベースアップしてないよ（笑）

◎もうガッカリする話ばかりじゃないですか（笑）

◎だから、やっぱり、本人の力だと思う。やりようによって、そこそこ稼げるというのが農家だと思う。年功序列もないし。

◎自分が就職する頃や、その前の母親の世代って、公務員の地位というか、年収ベースでもそんなに高くなくて、でも、バブルが弾けたら、安定した公務員の地位が上がった。それを考えると、10年、20年、30年たってみると、自分で何かやりたいという人たちが増える時に、選択肢の中に「農業って、いいよね」と農業が位置付けられるように、そこを目指して、この地区で、自分たちで、できるんだったらいいなあと思う。

◎農業全般というか、この地域が好きだから。山（平地林）がちらほらあって、カブトムシも採れて、20年、30年くらい前までは蛍もいて・・・。こういう環境が大切。

◎蛍はいなくなったけど、イノシシが出るようになった。

◎小川に孫を連れていき、ザリガニや魚をとる。本当に喜び、嬉しそう。チョウチョを追いかけてわして、「採れたよ！」と嬉しそうに見せてくれる。その環境を残したい。今はどこでも、用水路

でも小川も、コンクリートで固められてしまったのが残念。農業機械を使うことを考えると、ちゃんとしてしっかりした整備が大切だが、自然の生き物のこと考えると、土側溝が理想。すごく矛盾しているなあと思うが、孫の顔を見ると、自然環境を残したいなあと思う。

◎自分も子どもの頃は、外で、生き物を追いかけてまわして遊んでいたが、今思えば、家庭用ゲーム機が出始めで、家にまだなかったから。あったとしても外で遊んでいたと思うけど。今の子ども、ザリガニ釣りとか連れていくと、楽しんでいるし、ゲームのあるなしに関係ないのかな。30年後、今の子供たちが、自分の子供たちを川や外に連れて行こうとした時に、環境が変わらないように残していきたいと思う。

◎農業の維持と環境の保全は繋がっている。誰も農業をやらなくなると、法律も改正されて、農地でも開発していいということになるかもしれない。土地利用が変わり、ヤードと太陽光パネルばかりになるかもしれない。どれくらいの人がそう思ってくれるかはわからないが、農家は、地域の環境保全に貢献していると思う。

◎それから、この辺りの人は、イベントとかやる時に、メディアにアピールすることが得意でないように思う。大谷南部は、栃木県の南の玄関口でもあるので、何かしら盛り上げていきたい。カボチャを作っているので、ハロウィンパーティなどのイベントを、SNSなども使って計画していけたらと思う。農業体験だけでなく、いろんなイベントの可能性もある。

◎新4号ができて、道の駅が古河と下野に出来た。上り車線ばかりに。その中間のこの辺に道の駅がない。下り車線にも無い。イベントとか企画しても、場所がない気がする。

◎施設があると使いやすいかもしれないが、上物などがなくても、畑の中でイベントをやるのも良いと思う。

◎学区で言うと、中学校は大谷中。小学校が南小

と東小があって、東小が大規模校で、地区の差が大きい。東小は栃木県でいちばん新入生が多い。南小は、全校で60名しかいない。南部地区は、同じ中学校の学区内に、そのように児童数が増えている地区がある。だから、東京とか埼玉をターゲットにしなくても、地区内で、アピールして、農業体験などもできる可能性がある。

◎自分たちからしたら、収穫は、当たり前の作業だが、それもイベントにして参加費をもらうような仕組みにしても良いのかも。

◎市の貸し農園も埋まっている状況だと聞くので、農作業も考え方を変えれば体験イベントになりそう。

◎自分で収穫してもらって、費用を払ってもらう。

◎栃木県で観光農園というと、イチゴとかになっちゃうけど・・・。

◎多種多様な露地野菜ができる。イチゴ狩りとかでなく、レタス狩りがあってもいいし。それに2品目くらい加えてもいいし。希望者に、小さな農地を貸しても良いのでは？

◎栽培や収穫以外で、まだやれることはありそう。農業をやっている人が、一番、農業の魅力に気づいていないのかもしれない。

◎見方を変えれば、本当にいろいろと可能性が出てくる。

3 | 自治会リーダーの方々

参加者：男性5名（60代70代）。定年退職後に農業を始めた方、地域活動や自治会活動をされている方々。4名の方が大谷南部で生まれた方、1名が他市からの転入。

実施：2023年6月7日 18時～19時30分

場所：大谷公民館

1：地区との関わりや地域活動、生活圏など

◎生まれも育ちも大谷南部。土木系の会社で働き、若い頃は家にいなかった。定年退職して兼業農家として米を主に作っている（1町歩）、畑もあるが防塵対策でうなっているだけ。JAの農区長を60歳から2回やっている。年齢の順に上から回ってくる。自治会長としての仕事は、ゴミステーションの管理などが大変。

◎会社勤めで東京と宇都宮へ通勤し、65歳で退職。退職後は、少しの畑をやって直売所に出したりしているが、コロナ禍の影響もあって、急にお百姓さんを始めた感じ。あとは、子どもお囃子会や小山子ども郷土芸能振興会に関わっている。

◎県内の他の市で生まれ育ったが、結婚相手の妻が専業農家の一人娘なので、大谷南部に移住した。仕事は中学校教員。退職後も今は、非常勤として市内の学校に勤務している。義父の代は、カンピョウ やかぼちゃをつくり、今は、田んぼを中心に農業も続けているが、田んぼは近所の人にやってもらって、畑は一部を貸して、一部を自分でうなっている。生活圏としては、車社会なので、結城市や古河市へも行く。

◎生まれも育ちも大谷南部地区で小中学校の教員をしていた。孫が小学生で、現在は学校支援ボランティアで活動し、プール掃除などもやっている。（滑る）など。南和泉の自治会長とし

ては、今年の4月から自治会だよりの発行を始め、だいたい2週間に1回くらい発行し、現在9号目。発行の頻度で広報おやまに勝っている（笑）。自治会だよりでは、南和泉のスローガンを伝えている。①み：みんなでゴミ収集のマナーの向上 ②な：なんでも解決できるまちづくり ③み：みんなで住み続けるまちづくり（SDGs）高齢化が進んでいるけど、後継者づくりなどを頑張ってなんとか持続可能な地区にしていこう。そういうことを自治会だよりで発信すると、嬉しい反応もきびしいご指摘もある。就職と同時に、家に残ることになり、10年くらいは親の農業の仕事の手伝いもやったが、学校の仕事との両立はなかなか厳しい。親も高齢になってきて、借り手を探すのは困難だが、貸すしかない。

◎家は農家だったが、自分が16の時に父親が他界して自分は他の仕事に就いたので、農地貸している。小さい地区なので自治会長も周り番で回ってくる。

◎生活圏としては、車があって運転できれば、特に南和泉などからは、間々田も古河も近いので、不便なところではないが。

◎しかし、車がないと不便な地区。

◎おーバスも昔は通っていたが、廃止された。

◎昔は関東バスも通っていた。古河への路線だった。

2：地区の農業の現状と、これからについて

●人口減少と後継者・担い手不足の実情

◎荒井原は、19軒だけで小中高生はいない。農業後継者がいるのは1軒のみ。後は、70代80代が現役として、何とかやっている。その代限りで終わってしまうような状況にある。◎南和泉は、177軒、専業農家が7、8軒、98%が非農家。敬老会は、80歳以上が55名（R4）、66名（R5）、34%が80歳以上。60歳以上になる

と、半分の割合になると思う。どの地区も同じだと思うが、空き家も増え、老人のひとり暮らしや、高齢夫婦の二人暮らしが増えた。そういう状況でのまちづくりは、緊急の課題。30年後と言われても、10年で消滅するかもしれない。今のうちに、手を打たないと。

◎市街化調整区域の指定がネック。限られた人しか家を建てられないから、外からも入ってきにくいし、若い人たちも外に出ちゃう。少なくとも、その土地で生まれた人たちが、そこに住めるように、規制緩和を考えないといけない。

◎うちの近くの雑木林は住宅地になった。子供が増えて、登校班9人いる。地価は安いし、地域の人口減少を止められる可能性はある。

◎うちの自治会は37軒あるが、専業農家は2軒のみ。どこの地区も1桁だ。大谷地区全部合わせても、専業農家と言える家は何軒あるのか、調査も必要。◎専業農家は、1桁いるのかいないのか。市はリサーチすべき。

◎武井自治会などは専業農家が多い方だと思う。昔はよかったが今は収入が下がっていると聞く。

◎にんじん、大根などの根菜もあるが、露地栽培で葉物が多い。他はハウスで、トマトやきゅうりをつくる。

◎加工場は無い。加工用も農協に持っていく。あとは、箱に詰めて市場に出す、など。

◎地産地消というが、ここはみんながつくっているから、地産他消。

●遊休農地の借り手

◎水田：知り合いや親戚などに頼んでやってもらうケースが多い。

◎畑：外国人を雇って大規模にやっているような専業農家や、法人、会社。茨城の結城などの法人が借りているところも多い。

◎近隣の年寄りだと、腰が痛いとか体力が持たないとか、難しい。

◎外国人の人は、能力給や時給でやっているだけで、地域の農業を継承してくれるわけではない。

◎野田は、土地改良をやって担い手づくりも行い、担い手が請け負ってやっている。塚崎、六軒も。田んぼはそれで、結構、集約できるが、畑は難しい。

◎畑も、道に沿ってまとまった面積があれば、借り手がつくが、それ以外は難しい。

◎これからの農業は個人では難しい。基盤整備して、法人でやっていければ良いのだが。

●農業と工業団地

◎塚崎にできる工業団地テクノパークは、もう全て決まっているらしいが、どんな工場が来るのか。せっかく大谷にできるのなら、もともと農業が主体の地域なので、農業と密接に関わる工場を誘致してもらって、そこに、農家が作ったものは納められるようになるといい。食品加工みたいな工場など。今まで売れなかったものが、加工を前提に売れるようになるなど、農業のやりがいにつながるようなものができて欲しい。^{註2}

◎やはり収入が上がっていかないと、農業を志す人は増えない。

◎今は機械代や肥料代が嵩むから、純粋な収入が増えない。

◎肥料、電気、ガソリンそのほか、いろんなものの値段が上がっているのに、米の値段は下がっている。

◎地域密着の工場ならば、少しは農業の将来の姿というのを描いてもよいのではないか。

註2：大正～昭和初期に原料立地型で発展し始めた小山の工業について（小山地区基礎資料にも掲載）

日本製粉の前身である東洋製粉は、大正5年（1916）に京都工場を移転し、小山駅の東側で操業。小山を選定した理由に「原料小麦の主産地である関東地方の中心にあり、製品を東北地方な

ども出荷するためにも、交通至便の地であったため」とある。

大正 9 年（1920）に日本製粉と対応合併した。

また、日本製粉小山工場の隣接地に、大正 13 年（1924）に東海製菓株式会社が移転し、キャラメルやビスケットの製造を開始。昭和 17 年（1942）に森永製菓と合併し、森永製菓小山工場となった。『小山市史通史編Ⅲ近現代』（P629～631）より。

3：地区の課題と、これからの可能性

●農業

◎農産物の価格もずっと低いまま。これだけ物価が上がっているのに。これでは農業をやる人がいなくなる。

◎農業をやる人がいないということは、ここの調整区域は、目に見えて、人がいなくなっていくということだ。

◎日本は自給率が 30% もない。有事の場合に備えて防衛がなどと言っているが、食べ物がなくなってしまう。ウクライナのこともある。

◎第一次産業というくらいだから、元々は一番大事な産業のはずだが。

◎食糧は他所から買って、日本は車なんかを一生懸命売らしようと、以前、国も舵を切ってしまったから。

◎第一次産業のはずだが、それをないがしろにされているから、農業の分野に、人も呼べない、人も増えない。ここでは、家もつくれない、道路も狭い、農家も続けられない、後継者もできない。

◎市街化調整区域のまま放置されているし、それに国の農業政策の失敗もあり、その結果、こうなっているのではないかな。住めば良いところなのに、若い人は出ていかざるをえないし、公共交通も廃れる。

◎日本の持ち味を出して（米を）増産すべき。

◎売れるものとしての特産品、この地区で一番、商品価値が高いものはなんだろうと、そこを考えていかないといけない。生井は、ふゆみ

ず田んぼ米、豊田などはハトムギなど始まっているが、大谷地区で農業盛り上げましようという話は、全体ではなく、みんな個々でやっている。

◎これから、いろいろ考えていかないといけない。例えば、野菜は選別して売りに出しているが、わざわざ手間かけて選別しないで、色々まとめて、一袋、一箱、いくらで売ってみるとか。大きくても小さくても関係なし。意外と人気なのは曲がっているキュウリだったりする。

◎B 品ばかり売っているところもある。

◎わざわざ規格を揃えることもしなくて良いのではないかな。自分のクビをしめている

◎構想として作っていくのであれば、どうやって農業を盛り上げるか、その旗振り役が必要。そうでないと、誰が法人を作るのか、企業と一緒に株式会社みたいに作れるのか、そんな話も進まない。

◎農業の人は、個人経営でずっとやっているから、みんなと混じって考えたりやったりするのは、どうしても難しい。土地も個人個人のものだから集約も難しい。

◎そういう（法人など）時代ではない時にやってきたから、確かに難しい。

◎農地バンクの制度も、活用しやすいかという、そうでもない。

◎J A も経営を成立させていかないといけないから、そういうところまではなかなか手が出せないと思う。

◎しかし、利益にはならないかもしれないけど、J A の出発点に戻って、農家の方を向いて農業の振興を考えて欲しい。

◎機械を買うときはいくらまで出しますよとか、補助金出すことだけが、必要なことではないのではいい。

◎いろんなところで、やり方を変えてかないと無理だと思う。

◎全国各地では、J A 独自の取り組みでうまくい

って、ニュースになっているようなところもある。たまに見聞きする。

◎小山地域は、なかなか特産品や、目玉になる作物がない。

◎茨城は、白菜の値段が高くなると収益が上がる。メロンが有名など、小山も目玉があるというが。

◎ただ、皆が一斉に作れば値崩れもおこる、統制も必要。

◎米も1反歩10万にしかない。でも、トラクターに田植え機に、コンバインに・・・必要な機械は何百万以上。それじゃあ、これから米つくろうという人、いないよ。

◎米の値段と肥料の値段が同じでは、かなりきつい。

◎米の収穫時期は、どの農家もほとんど一緒だから、機械を共同で買って所有して使い回す、ということができない。本当は、共同で持てれば一番安く上がる。

◎兄弟や親戚が共同で持つくらいならいいかもそれない。

◎コンバインも、草をはやしちゃうような人と共同所有して、草と一緒に刈り取るような人に貸すと、壊れちゃうしね。

◎メンテナンスもあるし。共同管理は難しい。

◎だからやっぱり、法人だと思う。

◎高松には、八千代町などから法人が入って、キャベツ、とうもろこしなどをつくっている。

◎六軒は、法人ではないが、同じ個人が借りているところが多い、茨城から来ているようだ。

◎運送も自前でやっていて、漬物工場などへ運ぶところは強い。

◎法人化してなんとかしようとしても、道が狭くて、農道に大型機械が入れない、4t車が入れないとだめ。

◎軽トラがやっと通れるくらいのところでは、できない。

◎基盤整備の話もそのうちあるかもしれない

が、畑が点在しては、基盤整備ができないし、反対する人が一人でもいてもできない。また、基盤整備するには「担い手」を作るという条件があるので、高齢の農家ばかりで後継者がいないと難しい。

◎やはり、根本的な問題は、後継者不足。

◎最初は、まず、道を広くする。そして、グループをつくって、利用者を探して貸すという仕組みづくりを始めるのが良いのではないか。

◎なにか手を打たないと、本当に人がいなくなってしまう。

◎若い人が住み続けられず、子どもがいないので、まちづくりにならない。

◎住めば良いところ。車があり、道が空いていれば、間々田駅にも近い。メリットがもっと出せば良いが。

◎川の氾濫もなく、住宅は高いところに。低いところに田んぼ。地震被害も大きくない。

◎自動運転の時代になれば、変わってくるかもしれない。

◎道路、電気、上水道、排水が整っていれば人は住める。

◎上水道も、大谷南は100%ではない。共同水道、農業集落排水のエリアもある。

◎東野田でも、水道が入っているところに、山林（平地林）を潰して住宅分譲始まって、こんなところに誰が住むんだと思っていたら、あっという間に、埋まった。

◎農家にはたいてい井戸があり、水道を引かない家も昔は多かった。

◎今、敷地が広いと、水道の引き込み工事が自腹になり費用が必要となり、かなり大変。

◎若い子供がいない世帯は、もうあと何十年かで誰もすまなくなるから井戸のままでいいという家も多い。共同で水道を引く話があっても、全員の賛成が得られず、話が進まないことも多い、

◎家庭用には水道水を使い、農作業用には井戸

水を使う

- ◎井戸水は、地質や土質により、水質が変わる。鉄分、マンガンが多いところもありポンプの腐食が進む。若い人は、井戸は嫌がる。
- ◎住環境ひとつとっても、都会の人が考える環境と、こっちの人間が考えている環境は、ずいぶんと違うと思う。
- ◎自然との共存といえは聞こえはいいが、動物の被害だけはなんとかしないとイケない。
- ◎さっきも行ったけど、放置しているのは、破壊にもなり、自然といわない。手を加えて、管理して、次につながるように。
- ◎20年30年経っても、この地区は、そんなに風景は変わらないだろうけど。
- ◎消滅するかもしれない。
- ◎道ができれば、ある程度は、風景も変わってくると思う。アンダーパスができて、車の流れが変わった。新4号から間々田へ。
- ◎学校周辺の朝は、渋滞で動かない程になっている。トラックも、通勤の車も。
- ◎大谷南部は、新4号がドカンと通っているだけで、そこから派生して周りも道が整備されていない。

●粗大ゴミ廃棄やポイ捨て

- ◎車の流れが変わり、ゴミも増えた。ポイ捨て、粗大ゴミの放置が凄まじい。
- ◎週に2、3回、自主的にゴミ拾いをしている。45L袋がいっぱいになる。
- ◎焼酎の瓶など、家庭ゴミをわざわざ持ってきて捨てているようなゴミも多い。
- ◎林など、少し奥に行くと、ソファ、冷蔵庫なども。車も捨ててある。
- ◎粗大ゴミは、持ち込むと有料。それで平地林に放棄しているのか。
- ◎行政は、地権者で片付けて欲しいという見解。しかし、地権者も、他人が勝手に捨てたゴミを金を払ってわざわざ時間もかけて処理はし

ない。結局、放置されたまま。

- ◎分別しきれないゴミの大袋も。
- ◎年に2回くらいは自治会で草刈りしているが、それでは足りず、すぐに荒れ果てる。

●空き家と獣害

- ◎ゴミの問題も深刻だが、空き家が増えて、獣害も増えている。
- ◎目に見えて空き家が増えている。専業農家の数より、空き家の数の方が多い。
- ◎敬老関係の名簿を見ても、そこに名前がある高齢者しか住んでいないという家がたくさんある。子どもや孫は、外の地区に出て行っているから、いずれ、すぐに空き家になる。
- ◎外国人が、この空き家を売ってくれないか、と、相談に買いに来る。
- ◎ハクビシン、アライグマ、イノシシ、タヌキなど、空き家ではなくても入ってくるのもある。空き家がさらに増えると、その獣害も増す。
- ◎現状、箱罠を仕掛けても、イノシシは、ほとんど入らないそうだ。
- ◎法律上、動物は自分で処理できない。狩猟の免許を持つ人も高齢化が進み、昔はいた猟友会の人もいない。
- ◎畑の実害もかなり増えている。とうもろこしなど、だいぶ食べられている。
- ◎自己防衛とはいえ、電気柵の補助金(1/2)は出るが、100万かかったとして、50万は払わないといけない。
- ◎とうもろこしの収穫では残り1/2をなかなか払えない。一番いい時で、一反歩10万上がればいいというくらいだから。

●ヤードとソーラーパネル

- ◎新しくできるのは、太陽光パネルとヤードくらいしかない。すごい勢いでできている。事業者が、山(平地林)を車置き場として買いに来

る。コンビニもないし、若い人も嫌がって出て行ってしまう。寂しい状況になってきている。

◎山を潰しているから（中古車置き場などにして）、すみかをなくした獣が出てきて、畑の野菜が食べられる。

◎ああいうのは、歯止めはできないものだろうか。

◎イノシシの目撃情報も増えている。4月の最後の週に、294号線での目撃情報も2件が寄せられた。田んぼや畑だけでなく、だんだん人家に近づいてきている。自治会だよりも掲載した。下野新聞によると、2022年度に500頭近いイノシシが、渡瀬遊水地で確認されたが、罠にかかったのは20頭しかいない。他は野放し状態。

◎桑地区では、罠に全く入らないと聞いた。

◎イノシシは、雑食性で子たくさん。あつという間に増える。用心深くて賢い。ハンターが、南和泉はイノシシになめられていると言っていた。

◎行動範囲も直径6キロ。住民全員の問題。喫緊の大きな課題。

◎自然環境は、いかに手を入れて、なおかつ、良い環境を保持していくか。それが大事。手を加えないと維持できない。

◎昔は山を持っていると、農業やっている人が「落ち葉をくれ」と、きれいにさらって持って行ってくれた。

◎今は、化学肥料になって、そういう落ち葉集めをしてくれる人がいないから、荒れ放題。

◎落ち葉で堆肥を自分で作るという人はいなくなってしまった。

◎大きな農家は、稲藁、米糠がたくさん出て、置いておくことができるから、そこから肥料を作るところも多い。化学肥料だけだと高いし、あまりいいものができない。

◎小学生中学生の頃までは手伝いでやっていた。

◎今は、たまに町場の人が、借りている菜園に使うからともらっていくこともあるが、量は少ない。趣味程度に落ち葉堆肥をやる人。

◎小山市も、以前、生ゴミ堆肥を作っていたが、塩分が強くて良質ではなく、無料で配っていた例もあるのだが、今も継続しているのか。

◎そういう循環システムを作って、そのサイクルの中に「農業」も組み込めたらいいと思う。

4：30年後の大谷南部地区と小山市

◎30年後と言われても、現実的なことしか言えない。今のまま、何も手を打たないと、人はいなくなってしまう。10年で、もう厳しい。今、75,6歳くらいの人で農家やっている人が多いから、もう10年で、できなくなる。空き家も増えてきて、この地域は消滅しちゃう。

◎広い農地なら、外人さんが借りてくれるかもしれないが。

◎農業は、なんとかしないといけけない。小山市の食料を、ここで担うということをやっていないといけけない。若い人に、この土地に住みついて、農業でちゃんと金儲けをして、生きていけるような、そんな地域になってくれたらいいと思う。

◎何回も話が出ているが、市街化調整区域の規制緩和が必要。ある程度の改正が必要。若い人、子供が住んで活性化することが、まずは、基本。

◎小さく売買しても、将来、誰の土地かわからなくなる。

◎林、山も、同じ。誰の土地かわからない問題もある。

◎相続の絡みで、持ち主が全国区にわたっていたり、持ち主の住所のところに誰も住んでいなかったり。

◎子供たちも、負の遺産だからいらない、という問題もある。草刈りしないといけけない、税金

を払わないといけない・・・。

◎農地も林も、放置しないようにしたい。二次自然は管理を、人の手を加えて手入れしていかないと、すぐに荒れてしまうし、かえって環境破壊にもつながる。

◎放置されているところは、結果的に、地域の人がボランティアで、仕方ないから、やらなければいけない機会が増えてくる。

◎そういう小さな環境整備の積み重ねが必要。小さな活動を積み重ね環境保全を行なっていくことが大切。

◎田園環境都市は、市街化調整区域と、市街化区域を結ぶのは、やっぱり環境ではないか。お互い、交流しないとイケない。お互い、交流できて人が呼べるように。うちの地域は、一番南なので、基盤整備ができていない。農地も荒れるし、道もできない、用水排水も不十分。農業環境を整えてあげないと、若い人たちが農業に踏み出せない。そういうこともひっくるめて持続可能に。交流したり、宣伝したりしながら、次の世代のために整えていきたい。

3-2 アンケート調査結果（概要と考察）

大谷南部地区で実施したアンケートについて、ここでは、主要な設問の結果について概要と考察を掲載する。設問内容によっては、既に調査を終了した他地区の結果との比較も行う。

質問票と、単純集計・クロス集計の詳細版は別添資料(アンケート集計結果報告書)に掲載する。

回答数/回答率について

回答数 521 件

- ・紙の調査票による回答：517
- ・インターネット回答：4
- ・調査票での回収率：70.5%
(733 戸中 517 戸からの回答)

1：回答者の属性について

1-1 設問【1】の集計結果

-1 性別

男性 66% :342 名	女性 27% : 139 名
---------------	----------------

その他 23 名 無記入 16 名 無効 1

-2 年代（回答数が多い順）

70 代以上	40%	69%
60 代	29%	
50 代	13%	22%
40 代	9%	
30 代	4%	4%
20 代以下	0%	

無記入 26 名 無効 1 名

-3 世帯人数（回答数が多い順）

2 人世帯	29%	151 名
4 人以上世帯	27%	140 名
3 人世帯	22%	113 名
本人 1 人世帯	11%	58 名

無記入 58 名 無効 1 名

-4 職業（回答数が多い順）

無職	31%	168 名
会社員	21%	114 名
農業（専業）	13%	68 名
パート/アルバイト	12%	65 名
自営業	7%	40 名
農業（兼業）	7%	35 名
公務員	2%	8 名
自営業	3%	16 名
団体職員	0.2%	1 名
学生	0%	0 名

その他 9 名、無記入 27 名 無効 1 名

調査票での「無職」の表記は、「無職（退職者・主婦・主夫等含む）」

-5 お住まいの大字

-6 地域活動の経験

＞別添資料（アンケート集計結果報告書）に掲載

- 7 大谷南部地区との関わり～回答が多順（選択肢の文章は一部略）

大谷南部地区で生まれて、一度も地区外で住むことなく、今に至る。 218 名（42.0%）

大谷南部地区で生まれて、就職のために地区外へ出て、戻った。 80 名（15.4%）

栃木県外で生まれ育ち、大谷南部地区に移り住んだ。 65 名（12.5%）

栃木県内の他の市町で生まれ育ち、大谷南部地区に移り住んだ。 48 名（9.2%）

小山市の他の地区で生まれ育ち、大谷南部地区に移り住んだ。 47 名（9.0%）

大谷南部地区で生まれて、進学、就職で地区外へ。のちに戻った 14 名（2.7%）

大谷南部地区で生まれて、進学で地区外へ。のちに戻った。 11 名（2.1%）

無記入 33 名、無効 5 名

●出身地別の内訳

集計結果を、生まれた県や市町でまとめ、その割合を見ると、このような内訳になる。

栃木県外で生まれた		12.5%	21.7%
栃木県内の他の市町で生まれた		9.2%	
小山市で 生まれた	他の地区	9.0%	71.2%
	大谷南部地区	62.2%	

●コメント欄の記述

大谷南部地区に他所から移り住んで来た人や U ターンした人には、コメント欄にその理由を記入してもらった。（コメント回答 174 件）

主な理由を表に挙げ、コメント欄の記述から一部を紹介する。

コメント要旨	回答件数
①実家や親との関係で	82
②結婚に関する理由で	57
③就職や転勤で	40
④自然の豊かさや地域の特性が気に入って	10
⑤生まれ育った故郷だから	3

●記入コメントより

①実家や親との関係で

◎夫の実家がある地区だから ◎親の介護 ◎実家の敷地に家を建てる事ができたから ◎妻の実家に農地をもらい家を建てた。◎長男で家業（農業）を継ぐため・・・など

④自然豊かなことや地域特性が気に入って

◎ペットや子どもをのびのび遊ばせることのできる自然環境や広い土地に惹かれたから ◎田舎に住みたかった 田舎住まいがしたいと思った。環境の良い土地。森林なども興味があり、決めた ◎家を建てるのに土地が広く安かった。4 号近いし市内も行きやすい ◎家をさがしていたら南和泉にいい土地があった ◎自然豊かな環境と国道へのアクセスの良さが気に入ったため ◎土地柄、気候、人間性、他。◎自然が市内で豊かなため ◎子育てと生活の利便性を考えて ◎住みやすい・・・など

1-2 集計結果より

●主たる回答者像について

以上の結果より、主たる回答者像は、「大谷南部地区で生まれた 60 代以上の男性」と考えられる。

先行調査地域の、田園地帯である生井地区・豊田地区、都市化が進んでいる大谷北部・中部地区、都市部の小山地区の回答者の属性を比べると下のようになる。

ただし、アンケートの実施方法の違いも、この際には影響している面があることも留意しておきたい。小山地区と大谷北部・中部地区では、無作為抽出でのアンケート郵送で実施し、生井地区・豊田地区と同様に、大谷南部地区も自治会を通しての全戸配布での回覧でアンケートを配布した。3 世代同居の世帯も多い地区では、回覧物は昼間に自宅にすることも多い 60 代以上の方が対応することが多くあり、回答者の年齢層の分布に反映されていると推察する。

	生井	豊田	小山	大谷	
				北中	南
男性	65%	62%	45%	46%	66%
女性	27%	33%	52%	50%	27%
60 代以上	75%	68%	46%	33%	69%
30 代以下	2%	5%	18%	26%	4%
地区出身	66%	60%	17%	14%	62%
県外出身	11%	10%	58%	50%	13%

●地区との関わり～豊田地区との比較

U ターンまたは、I ターンで移り住んだ人の「理由」について、同じ農業地帯であり、自治会による配布と回収によりアンケートを実施した、豊田地区との差異を整理する。

回答者の属性については、左下の表の通りであり、回答者の年代、男女比、および地区出身者の

割合も、ほぼ同様の数字となっている。この両地区において差異が認められるのが、U ターン、I ターンで移り住んだ人の「理由」である。

豊田地区

最多の理由：結婚に関する理由（178 件/499 件）

2 番目：自然環境が豊かな地で暮らしたい

その他：「実家の敷地に家を立てることになった」

「転勤を機に」「親の面倒をみるため」など

大谷南部地区

最多の理由：実家との関係を記述しているもの（82 件/174 件）「夫の実家がある地区だから」「親の介護」「実家の敷地に家を建てることのできたから」「妻の実家に農地をもらい家を建てた」「長男で家業（農業）を継ぐため」など（前頁の再掲）

2 番目：結婚に関する理由

その他：「就職や転勤で」「自然環境豊かな土地で暮らしたい」など

このような最多の理由の際については、大谷南部地区は全域が市街化調整区域であることに比して、豊田地区は（ほとんどが市街化調整区域であるが）小山地区に隣接する立木のエリアが市街化区域となっており、ショッピングセンター、新築の一戸建て住宅やアパートなどの宅地開発が進んでいることが、根底にあると考えられる。

大谷南部地区は、「実家に同居する」「実家の敷地内に、農業継承や親の介護のために家を建てる」というあり方に限定される側面があり、豊田地区は、「結婚を機に、出身地の豊田地区に移り住む」「結婚を機に、自然が豊かで、比較的、利便性もある（思川駅・ショッピングセンター）豊田地区に移り住む」という「選ばれ方」が可能となっていると推察される。本報告書でも、大谷南部地区の「人口減少」への切実な危機感は次章以降で可視化されてくるが、その解消を目指すにあたっては、田園環境が広がる地区同士でのさらなる細やかな比較検証が必要と考える。

2：生活圏について

2-1 設問【2】の集計結果

選択肢から1つを選ぶ

- 1 仕事や学校へ通っている地域
- 2 日常的な買い物や用事で出かける地域

-1 仕事や学校へ		-2 日常的な買い物等	
行先	回答数	行先	回答数
大谷南部	175	間々田地区	259
県内の他の市町	52	小山地区（駅東）	103
茨城県	50	大谷南部地区	38
小山地区（駅東）	26	大谷北部・中部	34
大谷北部・中部	23	県内の他の市町	16
間々田地区	20	茨城県	13
小山地区（駅西）	18	小山地区（駅西）	10
埼玉県	6	宇都宮市	2
東京都	5	東京都	1
宇都宮市	4	群馬県・千葉県	1
穂積・中地区	3	その他	1
桑地区	1		
絹地区	1		
豊田地区	1		
寒川・生井地区	1	-1 無記入 114 名 無効 3 名	
群馬県・千葉県	1	-2 無記入 32 名 無効 11 名	
その他	17		

選択肢から2つを選ぶ

- 3 休みの日に「特別な買い物」「会食」「イベント」等でよく出かける地域
- 4 休みの日に「自然の中でリフレッシュ」「アウトドアスポーツ」等で出かける地域

-3 特別な買い物や会食等		-4 自然の中で・・・	
行先	回答数	行先	回答数
小山地区（駅東）	256	県内の他の市町	225
間々田地区	118	茨城県	120
茨城県	110	大谷南部地区	72
小山地区（駅西）	96	小山地区（駅東）	57
県内の他の市町	93	間々田地区	48
宇都宮市	66	宇都宮市	39
大谷北部・中部	44	群馬県・千葉県	33
大谷南部	32	小山地区（駅西）	31
東京都	26	大谷北部・中部	24
埼玉県	24	埼玉県	16
群馬県・千葉県	9	東京都	12
桑地区	1	寒川・生井地区	10
絹地区	1	穂積・中地区	4
豊田地区	1	豊田地区	2
その他	11	絹地区	1
		その他	18

-3 無記入 52 名 無効 0 名

-4 無記入 173 名 無効 9 名

2-2 集計結果より

仕事で出かける普段の生活圏について、無記入と無効の回答を除く母数で見ると、回答者の4割が大谷南部であると回答し、日常的な買い物や用事では、回答者の6割が間々田地区を挙げている。続いて、小山地区の駅東エリアが多い。

週末などに出かける少し特別な買い物や会食、イベントなどでは、小山地区（駅東）が最も多く、

間々田地区が続く。

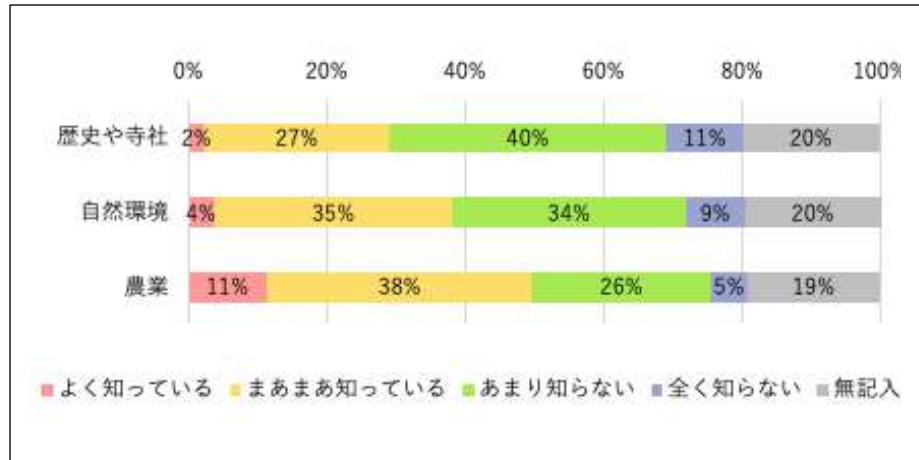
また4種類の設問の解答から、大谷南部地区は、その地理的な位置関係から、茨城県（古河市・結城市）とのつながりが強いことも伺える。県内の他の市町では、-3では、栃木市（14名）佐野市（10名）下野市（8名）、-4では、栃木市（22名）日光市（16名）那須町（13名）鹿沼市（11名）が上位となる。

3：大谷南部地区の地域資源への認知度・関心度

3-1 設問【3】の集計結果

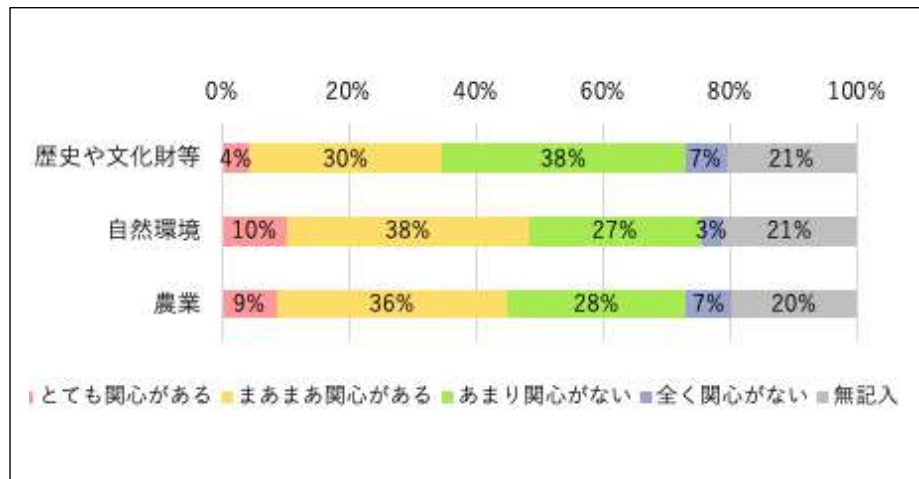
A 認知度を把握する

- (1)地区のなりたちの歴史や、
近隣に残る城跡や神社や
寺の歴史、由緒、祭り等を
知っていますか？
- (2)地区にある公園、街路樹、
平地林などについて
知っていますか？
- (3)地区内の農業について
どのような地域でどのよ
うな農業が行われている
か知っていますか？



B 関心度を把握する

- (1)地区のこのような歴史、
祭り、伝統芸能に
関心がありますか？
- (2)地区に残る自然環境に
関心がありますか？
- (3)地区の農業に
関心がありますか？



●年代別の集計結果

- (1)大谷南部地区の歴史や寺社、城跡、祭りについて

単位は%（無記入、無効の数値は表に含まない）

	知っている		知らない	
	よく	まあ	あまり	全く
全世代	29		51	
	2	27	40	11
30代	0	13	26	35
40代	0	16	51	18
50代	1	22	42	13
60代	1	26	46	13
70代～	4	35	38	4

関心がある		関心がない	
とても	まあ	あまり	全く
33		45	
3	30	38	7
13	26	39	22
0	27	49	9
1	27	39	12
3	29	46	7
2	30	38	14

(2)大谷南部地区の公園、街路樹、平地林などについて

単位は% 無記入、無効の数値は表に含まない

	知っている		知らない	
	よく	まあ	あまり	全く
全世代	39		43	
	4	35	34	9
30代	4	35	26	35
40代	2	20	51	11
50代	1	25	40	12
60代	5	37	36	8
70代～	4	43	29	6

関心がある		関心がない	
とても	まあ	あまり	全く
48		30	
10	38	27	3
22	48	22	9
7	33	40	2
3	34	37	4
12	38	32	3
5	41	33	6

(3)大谷南部地区の農業について

単位は% 無記入、無効の数値は表に含まない

	知っている		知らない	
	よく	まあ	あまり	全く
全世代	49		31	
	11	38	26	5
30代	4	35	43	17
40代	7	29	38	11
50代	10	30	27	12
60代	13	44	26	3
70代～	13	44	23	2

関心がある		関心がない	
とても	まあ	あまり	全く
45		25	
9	36	28	7
9	39	35	17
4	27	42	11
4	31	34	9
13	41	27	5
6	26	40	13

3-2 集計結果より

大谷南部地区の地域資源3項目について、どの年代も平均39%が「よく/まあまあ知っている」、平均42%が「とても/まあまあ関心がある」と答えている。

同じ農業地域として比較してみると、豊田地区で、3項目を認知度が高い順に並べると（歴史＞自然＞農業）であるが、大谷南部地区では（農業＞自然＞歴史）となり、農業に関しては、これまでの調査地区の中では最も高い認知度（49%）となっている。関心度がわずかに認知度を下回っており（45%）、非農家の住民の方々の地区の農業への関心をあまり高くないのではないかと推察する。

●4地区の比較

認知度は「よく/まあまあ知っている」、関心度は「とても/まあまあ関心がある」の合計数の割合%を記載。小山地区(3)は、市域全体の農業について尋ねている。単位は%。

		豊田	小山	大谷	
				北中	南
(1)歴史	認知度	52	27	11	29
	関心度	50	54	33	33
(2)自然	認知度	40	39	29	39
	関心度	45	65	48	48
(3)農業	認知度	37	25	18	49
	関心度	57	51	34	45

4：解消したい困りごと

4-1 設問【4】の集計結果

質問「あなたが「無くしたい」「解消したい」「解決したい」と考える大谷南部地区の困りごとは、どんなことでしょうか？」—— グループインタビューでの成果をもとに設定した19の選択肢を用意し、その中から3つ選んで回答する設問とした。

●回答が多い順（数字は回答人数）

1 道路（幅の狭さ・繋がり具合の悪さ等）・・・	147
2 農業の担い手・後継者不足・・・・・・・・・・	128
3 買い物の不便さ・・・・・・・・・・	113
4 公共交通の不便さ・・・・・・・・・・	108
5 地域活動の担い手・後継者不足・・・・・・・・	100
6 昔からの風習・・・・・・・・・・	88
7 空き家・空き地の増加　・・・・・・・・・・	85
8 人口減少・・・・・・・・・・	83
9 路上や公園などのゴミやゴミ出しマナー・・	62
10 地域の集まりや寄合い・・・・・・・・・・	49
11 子供が外遊びできる場所の減少・・・・・・・・	44
12 交通渋滞・・・・・・・・・・	34
13 地域でのコミュニケーション不足・・・・・	29
14 選択肢が少ない働く場所・・・・・・・・・・	23
15 祭りや伝統芸能の担い手・後継者不足・・	20
15 治安の悪化・・・・・・・・・・	20
16 騒音など住環境への影響の悪化　・・・・・	16
16 選択肢が少ない教育環境・・・・・・・・・・	16
17 大雨による被害（道路の冠水）・・・・・・・・	10

その他・無記入・無効は記載していない

●ジャンル別の割合

その他と無記入を除いた選択肢を、5つの領域に分けて全体に占める割合を示す。

交通や移動に関すること 368名　　34.2%	公共交通の不便さ、道路状況の悪さ、交通渋滞、買い物の不便さ
人口減少 担い手・後継者不足 331名　　28.2%	地域活動、農業、祭りや伝統芸能の担い手・後継者不足、人口減少
生活環境に関すること 193名　　16.4%	路上や公園などのゴミ・ゴミ出しマナー、空き家・空き地の増加、道路の冠水被害、騒音など住環境への影響・治安の悪化
地域コミュニティに関すること 166名　　14.1%	昔からの風習、地域の集まりや寄り合い、地域でのコミュニケーションの不足
教育環境や就労に関すること 83名　　7.1%	外遊びできる場所の減少、選択肢が少ない教育環境、選択肢が少ない働く場所

4-2 集計結果より

グループインタビューで語られた地域の深刻な問題意識（市街化調整区域→若い人が残りにくい→人口流出→過疎化・公共交通整備からも取り残される）が数字で表された結果となり、移動の不便さと担い手不足で7割弱を占めている。ゴミ問題に関しては、小山地区など都市部のように分別の不徹底さではなく不法投棄が問題化している。

●年代別の集計結果（選択肢の言葉は一部省略または言い換え）

30代：回答23名	40代：回答45名	50代：回答67名	60代：回答151名	70代～：208名
1 道路状況の悪さ	1 昔からの風習	1 道路状況の悪さ	1 農業の担い手・後継者不足	1 道路状況の悪さ
2 昔からの風習	2 道路状況の悪	2 買い物の不便さ	2 道路状況の悪さ	2 買い物の不便さ
3 地域の寄合い	3 農業の担い手・後継者不足	3 公共交通の不便さ	3 公共交通の不便さ	3 農業 担い手・後継者不足
4 選択肢が少・教育環境	3 地域の寄合い	4 昔からの風習	4 空き家・空き地増加	4 地域活動担い手・後継者不足
5 人口減少	3 買い物の不便さ	5 地域活動の担い手・後継者不足	5 人口減少	5 公共交通の不便さ
5 ゴミ問題				

5-1 設問【5】の集計結果

質問「あなたが「大切に守っていききたい」と考える大谷南部地区の小さな自慢は何でしょう？」グループインタビューの成果をもとに設定した12の選択肢を用意し、その中から3つ選んで回答。

●回答が多い順（数字は回答人数）

- 1 地域に残る歴史ある史跡、神社やお寺・・・164
- 2 消防団や自治会活動など助け合い活動・・・122
- 2 街路樹や公園、平地林などの自然・・・122
- 3 各地に残る祭りや風習、伝統芸能・・・85
- 4 交通の利便性・・・77
- 4 まちなみや景観・・・77
- 5 買い物の利便性・・・64
- 6 各地に残る歴史ある建築や古木・・・54
- 7 公民館で行われる祭りやイベント・・・40
- 8 趣味やスポーツの地域のサークル・・・27
- 9 地域の商業・・・11
- 10 地域の工業・・・10

その他・無記入・無効は記載していない

5-2 集計結果より

「歴史的な地域の資源」を守りたいという回答者が多いのは、回答者の属性（60代以上が7割）も

●ジャンル別の割合

その他と無記入を除いた選択肢を、6つの領域に分けて全体に占める割合を示す。

歴史的な地域の資源 303 名 35.5%	各地域に残る歴史ある史跡、神社やお寺、各地域に残る祭りや風習、伝統芸能、各地域に残る歴史ある建物や古木
地域コミュニティに関すること 189 名 22.2%	公民館で行われる祭りやイベント、消防団や自治会等、地域の助け合いの活動、趣味やスポーツの地域のサークル活動・
利便性に関すること 141 名 16.5%	交通の利便性 買い物の利便性
地区に残る自然環境 122 名 14.3%	街路樹や公園、平地林など まちなかに残る自然
地域の景観 77 名 9.0%	まちなみや景観
地域の産業 22 名 2.5%	地域の工業、地域の商業

影響していると考えられる。年代別の差異としては、30代以下は「まちなみや景観」を最重要視し、年代が上がるにつれ、その順位は下がることが挙げられる。「街路樹や公園、平地林の自然」は、この項目単体で3番目であり関心度は高いと言える。

●年代別の集計結果（選択肢の言葉は一部省略または言い換え、同数のものは同じ順位）

30代：回答 23 名	40代：回答 45 名	50代：回答 67 名	60代：回答 151 名	70代～：208 名
1 まちなみや景観	1 歴史ある史跡、神社	1 歴史ある史跡、神社	1 歴史ある史跡、神社	1 歴史ある史跡、神社
2 街路樹や公園、平地林などの自然	2 街路樹や公園、平地林などの自然	2 祭りや伝統芸能	2 消防団や自治会活動等、地域活動	2 消防団や自治会活動等、地域活動
3 歴史ある史跡、神社	3 まちなみや景観	3 消防団や自治会活動等、地域活動	3 街路樹や公園、平地林などの自然	3 街路樹や公園、平地林などの自然
4 消防団や自治会活動等、地域活動	4 祭りや伝統芸能	3 街路樹や公園、平地林などの自然	4 祭りや伝統芸能	4 交通の利便性
4 公民館で行われる祭りやイベント	4 消防団や自治会活動等、地域活動	4 公民館で行われる祭りやイベント	5 まちなみや景観	5 祭りや伝統芸能
4 交通の利便性	4 交通の利便性	4 まちなみや景観		

6：暮らしの価値観

大問【6】として、個人の暮らしの中での充足感や豊かさをどう考えているかを問う質問を設けた。これは、SDGsの推進や持続可能な地域社会運営の構築を考える際に、生活者の価値観とそれに基づく行動様式の考察も必要不可欠であるという見地からの対応となる。

(1)については、全国的な傾向と比較するために内閣府が実施している「国民生活に関する世論調査」(1現在の生活について(4)現在の生活の充足感)と選択肢を同じくしている。同調査では、この質問は、昭和49年(1974)から継続されているので、経年での国民意識の変容も確認することもできる。

(1)(2)については、田園部・都市部の調査結果が出揃ってからの比較検討のデータとするため、ここでは単純集計の結果の掲載にとどめる。

6-1 設問【6】の集計結果

(1)「日頃の暮らしの中で「充足感を感じる」のは、どんな時ですか？」*選択肢から3つ選んで回答

●回答者が多い順(数字は回答人数)

- 1 ゆったりと休養している時・・・297
 - 2 家族だんらの時・・・256
 - 3 友人や知人と会合、雑談している時・・・240
 - 4 趣味やスポーツに熱中している時・・・222
 - 5 仕事に打ち込んでいる時・・・199
 - 6 社会奉仕や社会活動をしている時・・・45
 - 7 勉強や教養などに身を入れている時・・・33
- その他8名、無記入49名

(2)「あなたにとって「豊かさを感じる幸福な暮らし」は、どのようなことでしょうか？
豊かさや幸福の実現に「最も大切だと思うもの」は？」*選択肢から3つ選んで回答

●回答者が多い順(数字は回答人数)

- 1 心も体も健康でいられること・・・330
 - 2 老後、災害、犯罪や戦争などの心配がなく、安心して安全に暮らせること・・・208
 - 3 好きなことをする時間のゆとりがあること・・・185
 - 4 好きなことができるだけのお金や資産のゆとりがあること・・・175
 - 5 家族や親戚、友人や地域の人たちと助け合って生活すること・・・129
 - 6 自然に恵まれた環境の中で、またはその近くで暮らせること・・・107
 - 7 モノはあまり所有せずに、できるだけシンプルに身軽に暮らせること・・・83
 - 8 家庭菜園や花づくりなど、土に触れる時間があること・・・73
 - 9 家電や車など物質的に満ち足りた環境で暮らせること・・・50
 - 10 困っている人の役に立てる活動や、地域、社会の役に立てること・・・19
 - 11 住んでいる地域でつくられている農産物や商品が手に入る環境で暮らすこと・・・15
 - 12 地域の伝統や文化を絶やさず継承し、次の世代に引き渡す活動ができること・・・10
 - 13 日本各地、世界各国の農産物や商品が手に入る環境で暮らすこと・・・7
 - 14 情報や商品が手に入りやすく文化芸術に触れる機会が多い都会で暮らせること・・・4
 - 15 社会的な地位を築き、名が知れた存在になること・・・1
- その他3名「世界で戦争の話がでないよう」「不安がなく充実した生活ができる」「該当なし」、無記入39名

7：望ましい小山市の都市環境のあり方

7-1 設問【7】の集計結果

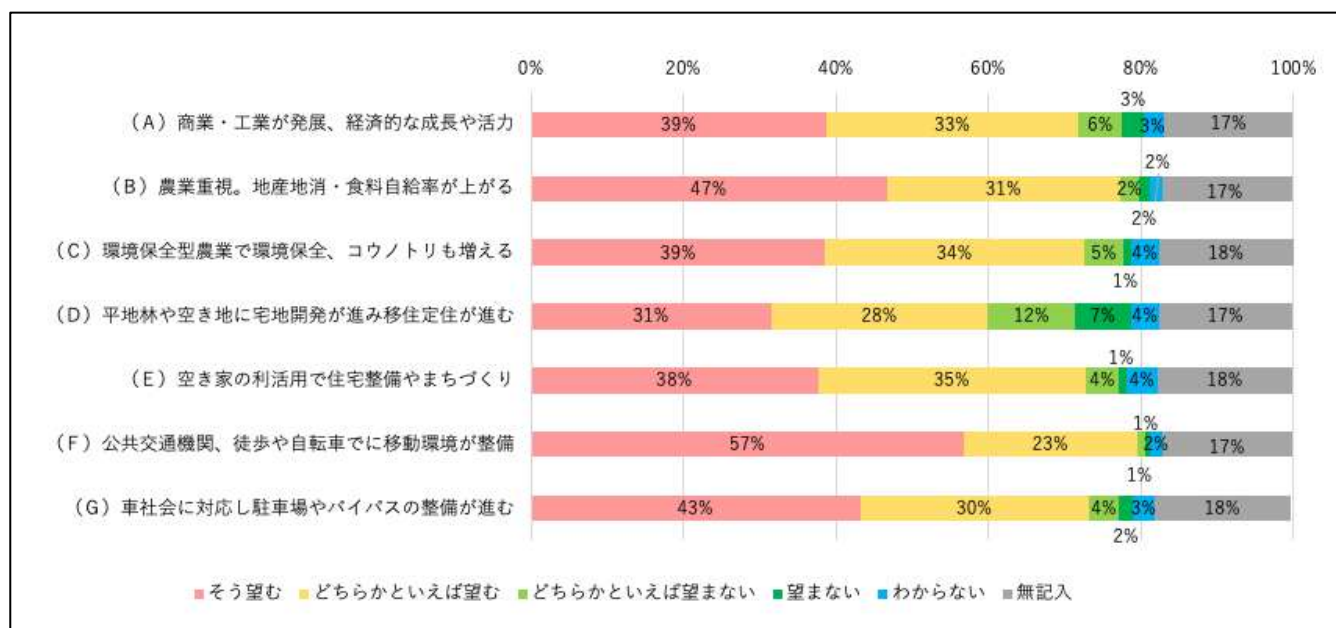
質問：「最後に、小山市のこれからのまちづくりについて、お考えやご意見をお聞かせください」

(1) 20年後、30年後の望ましい小山市の都市環

境のあり方について、ご意見をお尋ねします。

A から G それぞれについて、選択肢の中からお考えに合うものを選び、番号を「回答欄」にご記入ください。（後略）

選択肢①そう望む②どちらかといえば望む③どちらかといえば望まない④望まない⑤わからない



●支持・共感者が多い順（「そう望む」「どちらかといえば望む」の割合の合計が高い順）

* 選択肢の文末「・・・小山市」は省略

- 1 80% (57) (F)公共交通機関の整備や、徒歩や自転車で安全・快適に移動できるまちづくりが進む
- 2 78% (47) (B)地域の農業が大切にされ、地産地消が進み、市域内の食料自給率が上がっている
- 3 73% (39) (C)環境保全型の農業によって自然環境も良好に保たれ、コウノトリも増えている
- 3 73% (38) (E)空き家の改修や利活用が進み、あるものを大切にしたい住宅整備やまちづくりが進む
- 3 73% (43) (G)車社会に対応して、駐車場やバイパスの整備など、車での移動が快適になる
- 4 72% (39) (A)商業・工業が発展し、工業団地も増え経済的な成長や活力が重んじられている
- 5 59% (31) (D)空き地や平地林などに新しい宅地開発が進み、定住する若い世代や移住者が増える

●「そう望む」の割合が高い項目

- 1 57% (F)公共交通機関の整備や・・・
- 2 47% (B)地域の農業が大切にされ・・・
- 3 43% (G)車社会に対応して、駐車場や・・・
- 4 39% (A)商業・工業の発展し、工業団地も

●「望まない」の割合が高い項目

- 1 7% (D)空き地や平地林などに新しい宅地・・・
- 2 6% (A)商業・工業が発展し、工業団地も
- 3 5% (C)環境保全型農業で、コウノトリも・・・
- 4 4% (E)空き家の利活用・・・(G) 車社会に・・・

●年代別の回答結果

		30代	40代	50代	60代	70～	全体	
A 商業・工業が発展し、工業団地 も増え経済的な成長や活力が重 んじられている小山市	そう望む	17	36	49	42	40	39	72
	どちらかと言えば望む	43	36	34	42	28	33	
	どちらかと言えば望まない	13	7	4	5	7	6	9
	望まない	13	9	1	3	1	3	
B 地域の農業が大切にされ、地産 地消が進み、市域内の食料自給 率が上がっている小山市	そう望む	43	44	58	49	47	47	78
	どちらかと言えば望む	43	38	24	38	27	31	
	どちらかと言えば望まない	4	4	4	1	2	2	4
	望まない	4	2	1	3	0	2	
C 環境保全型の農業によって自然 環境も良好に保たれ、コウノト リも増えている小山市	そう望む	39	40	36	41	41	39	73
	どちらかと言えば望む	48	36	40	39	30	34	
	どちらかと言えば望まない	9	4	6	10	2	5	6
	望まない	0	0	3	1	0	1	
D 空き地や平地林などに新しい宅 地開発が進み定住する若い世代 や移住者が増える小山市	そう望む	30	31	39	31	33	31	59
	どちらかと言えば望む	30	36	30	34	25	28	
	どちらかと言えば望まない	9	7	10	18	10	12	19
	望まない	17	16	7	6	6	7	
E 空き家の改修や利活用が進み、 あるものを大切にした住宅整備 やまちづくりが進む小山市	そう望む	26	33	45	42	38	38	73
	どちらかと言えば望む	39	44	42	40	31	35	
	どちらかと言えば望まない	9	9	1	7	3	4	5
	望まない	4	2	1	1	0	1	
F 公共交通機関の整備や、徒歩や 自転車で安全・快適に移動でき るまちづくりが進む小山市	そう望む	57	58	63	60	58	57	80
	どちらかと言えば望む	26	27	25	28	19	23	
	どちらかと言えば望まない	4	2	0	3	0	1	2
	望まない	4	0	0	1	0	1	
G 車社会に対応して、駐車場やパ イパスの整備など、車での移動 が快適になる小山市	そう望む	30	51	48	50	41	43	73
	どちらかと言えば望む	39	36	30	33	28	30	
	どちらかと言えば望まない	22	2	6	5	2	4	6
	望まない	4	0	3	1	2	2	

7-2 集計結果より

●本設問の趣旨

本設問は、田園環境と都市環境の調和が取れた未来の小山市のあり方を考えていくにあたり、その基盤となる「産業、宅地開発、交通政策」について、各地区ごとに「積極的支持/共感」から「不支持」の軸の上で、市民の考えを確認していくものである。項目としてあげたことは、これまでのグループインタビューでも語られているように「開発か自然環境保全か」「工業優先か農業優先か」などの「二者択一」で語るのは非常に難しい側面がある。「未来の子どもたちのために自然環境は残したいが、開発もして人を呼び込まないと地域が廃れてしまう」など、多くの市民の意識には「どちらか」では割り切れないある種のジレンマが存在する。それではどうするか？という小山市の未来へ姿と、そこへの道のりを市と市民で意見交換を重ねながら探っていくのが、未来ビジョンの策定であり、そのための参考資料として、本設問の結果はディテールを読み解きながら活用していくものとした。

●結果の概観

7項目は、A/G/Dがどちらかという「開発志向」の内容となっている。大きな差異が出たわけではないが、同じ設問で調査を終えた他の地区(豊田地区・小山地区・大谷北部中部地区)と同様に、総じて、開発志向の「商業・工業が発展し経済的に発展すること」「平地林や空き地に宅地造成を進めること」などの項目より、「農業・環境保全を大切にすること・空き家などあるものの利活用をすること」への支持・共感が高い傾向にある。また、車社会としての利便性(項目(G))より、車がなくても移動しやすい環境を望む声(項目(F))が、若干ではあるが上回っている。

年代による差異を確認する。どの項目も、「そう望む」「どちらかと言えばそう望む」の合計で比較

すると年代による差は顕著ではないが、「そう望む」という積極的支持のみで見ると、3項目において、10%以上のばらつきが見られる。(A) 商業や経済的發展を望む(30代:17%<50代:49%)、(E) 空き家の利活用を望む(30代:26%<50代:45%)、(G) 車社会に適応した整備を望む(30代:30%<40代:51%)。30年後の未来を、今の30代がどう考えているか、さらなる把握と理解が必要となる。

7-3 自由記述の内容について

【7】では下記のように自由記述の欄も設けた。

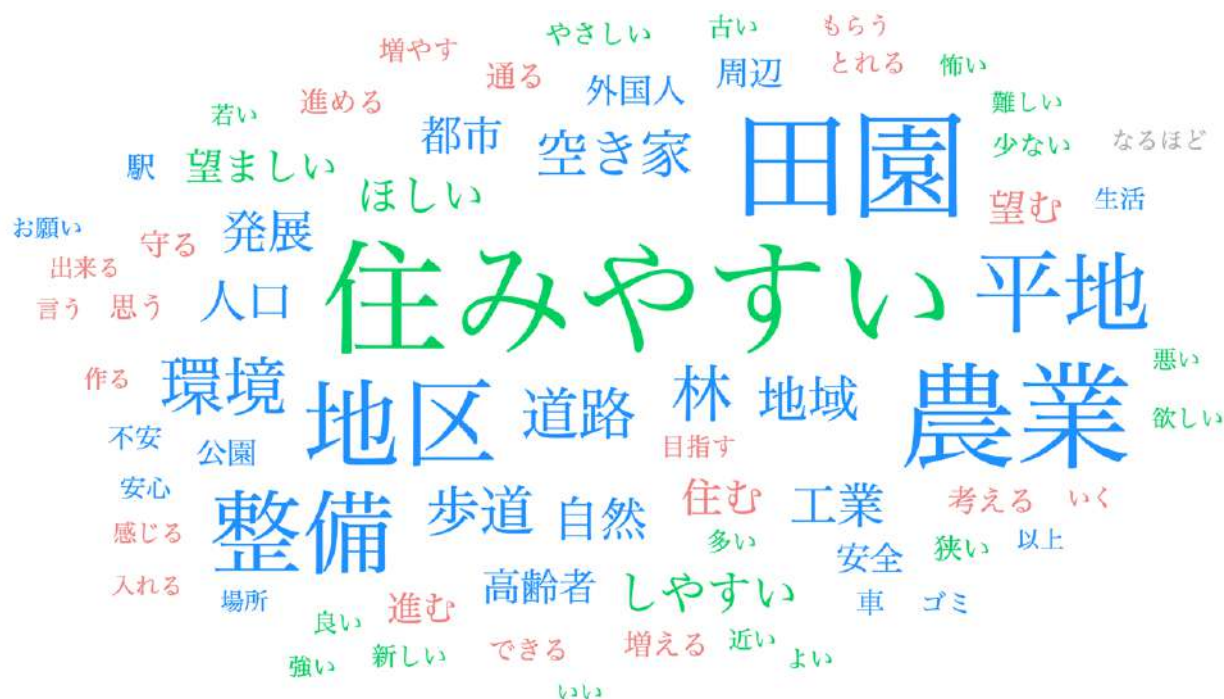
(2) 最後に、お考えやご提案を自由にお書きください。

*例えば、上記のAからGであげた例以外に、20年後、30年後の望ましい小山市の都市環境のあり方として、お考えがありましたら教えてください。*また、小山駅周辺の都市環境を持つエリアも、それを取り込む田園環境が広がるエリアも、バランスと調和がとれ、より良い関係を作りながら持続可能なまちづくりを進めていくために、小山市が大切にしていけるべきこと、具体的なご提案など、自由にお書きください。

173名から回答があり、別添の「アンケート集計結果報告書」では、回答をテーマごとに掲載した。複数の項目の記述がある場合は分割して掲載している場合もあり、また、明らかな誤りと認識できる表記は書き換えているが、基本的には原文のままの記載としている。

次頁からは、まず、自由記述全件の解析から見えるキーワードの紹介と、次に、分類したテーマと、一部のテーマについては、意見やコメント内容の概要を記す。

【7】の自由記述欄（30 年後へのご意見）に寄せられたコメント全件で多用された言葉を、1つの参考として紹介する。テキストマイニングという解析ツールによるキーワードの抽出で、大きく表示されたものほど、語られた回数が多くなっている。



アンケート調査【7】30年後の小山市のあり方についてのご意見 11,335 字から抽出（※ユーザーローカル AI テキストマイニングによる分析（<https://textmining.userlocal.jp/>））

A：都市環境のあり方について

1 | 自然環境保全、田園環境と都市環境の調和 連携について（合計 32 件）

1-1 自然災害への防災・減災（2件）

1-2 自然環境・田園環境の現状を危惧する声、保全を望む声（11 件）

平地林や休耕田への開発による自然が急速に減っている状況と、林が切り開かれた土地へのゴミの不法投棄が増えていることへの危惧のご意見が中心。また、大谷南部だけではなく小山市全体に、同様の問題があることへの指摘もあった。2つのコメントを紹介する。

◎小山駅周辺は、大分、環境整備や若者向けの発信も目にしますが、田園環境という面からはゴミ

捨て、ポイ捨てなど、森林脇道などひどい状態です。環境を求め、移り住む先を決めたら、現実にはゴミと狭い道路と猛スピードで通り抜ける車。ソーラーが新設され、伐採される森林。とても、この度のアンケートにある標題「田園環境都市おやま」からはかけはなれた現実が増大しているということを念頭にまず、改善から進めてほしいです

◎目先の利益、考えによって、森林を切り開いてのメガソーラーなどの設置やカードの乱立はやめてほしい。森林は、すぐには元には戻らないし、SDGs や環境保護などを進めるのであれば、表面的、利益最優先などは度外視で、自然を残す方法、共存する方法を模索し、進めて行ってほしい。なにより、心豊かにみんながなれるような方向に、導いてほしいです

1-3 具体的な提案（8件）

8件全文を紹介する。

◎この地に嫁いで45年。近隣の林がどんどん切り倒され、宅地や道路や会社が出来ています。このまま進めば、林や森は消滅する時が来そうです。例えば新しい住宅地をつくる時は〇㎡当り1つ公園が必要で、日蔭が出来る木を〇本以上植える条例を作る。例2.小山は県境の市なので隣の県と連携して道路整備や山林保全を図る。例3.東京の神宮の森が100年前に人工的に造られた様に広大な土地があったら、工場を作るだけでなく、自然も作ってほしいと思います

◎地区には公園が少ないため、豊かな自然環境を生かした自然共生型・ビオトープ型の公園ができると良い

◎小鳥の数少なくなっている。雀、つばめ等巣作りするところない。各家庭に1個以上の巣箱を置いたら。今年試しに1個おいたらすぐに雀が巣作り最中、楽しみ。巣箱ある農村はいかが？

◎農業地域(商業、工業、住宅)地域を分けて、それぞれの特徴に合わせ開発をする。ごちゃごちゃさせない。ヨーロッパの風景のように！

◎平地林の公園化による活用で田園環境の整備。(学校、医療、警察、消防、ホームセンターやスーパー等、車が必要となる前提はあるが、小山市はすべてを保有している。また自然も豊かなので、住みやすい都市になれるはず)

◎田園地区⇄都市地区のつながり(環境をキーワードに対策する)～都市環境を5分類する(人、モノ、金) ①生活環境②住環境③自然環境④人的環境⑤経済環境

◎平地林の雑木を利用し、バイオマス発電など地域の資源を活用して環境にやさしい小山市を望んでいる

◎太陽光発電など、再生可能エネルギーを市内で何とかできないかなと考えます。補助金や場所の提供など

1-4 遊水地・思川に関する提案（3件）

1-5 保全と開発(経済)、産業のバランスなど（8件）

都市環境のエリアと田園環境エリアのバランスよく調和が取れた発展を望む意見と、商工業、農業に加えて文化的な側面も大切に作るバランスの良い街を目指すべきとのご指摘や、都市部と農村部の交流が不可欠、調和が取れた持続的な発展のためには農業を大切にとのご指摘もある。3件のコメントを紹介する。

◎「都市環境」も「田園環境」もどちらも大切ですが、どちらかに偏ってしまうことがとても心配でなりません。バランスよく調和のとれた発展をしていく、20年後、30年後であってほしいと切に願います。「そのためには・・・」と今は具体的な案がちょっと考えられていないです。ただただ、自然が失われていく、また、農業がなくなっていく発展の仕方はしてほしくないと願うばかりです

◎現在のまま進むと小山市の年齢別人口はどうなっていくのでしょうか。高齢化社会に対応する小山市を目指すのか、それとも若い世代を取り込む社会を目指すのかで今後のまちづくりが変わってくるのではないのでしょうか。いずれにしても、1つのキーワードは「持続可能なまち」ではないのでしょうか。「だれもが安心・安全なまち」ももう1つのキーワードになりますね

◎都市部に住んでいる人で、農家の人と出会ったことがないという声をよく聞きます。人と人との交流がなければ、バランスと調和がとれたまちづくりはできないのでは？

2 | 農業について（14件）

グループインタビューでもアンケート【4】【5】でも語られているように、農業従事者の方々や自治会活動を牽引してこられている方々からは、将来への危機感が、切実に、強く、語られている。市街化調整区域として開発が制限されていることと、主要産業である農業もなかなか稼げる産業に

ならないことで、悪循環が生じていることが窺える。若い世代の流出が進み、過疎化が進み、公共交通計画からも取り残されている/いくことでの生活への不安も増し、ヤードやソーラーパネルの増加やゴミの不法投棄が進む。ここでは、14 件全てを掲載する。

◎持続可能な農業を進める為に基盤整備事業を導入し田園環境（魚、鳥、虫）自然のサイクルを守る農業を実現する事が小山を守る事だと思います
◎地域の農業を活かした新たな産業を作らないと、今の農業は続かないし食料生産に悪影響が出る。生活道路を整備し、商品価値を高める農工業を組織的に振興していくことが、この地域の人口減少対策となる。農地も空き地が増えることで計画的な交流事業を生み出すことで田園都市と言えるのではないかと

◎農業後継者不足のため、持続可能な農業を考えてください

◎農業人口減少による農地の活用方法

◎東野田地区は自然環境は豊かで住みやすい環境ですが、農家が多い中で完全に担い手不足です。若年層が少なく、県外や地域外に出る者が多い現状です。農家中心の風習も強く残っており、農家以外では人間関係を築きにくい、又はついていけない環境でもあります

◎大谷南部は農業が一番であると思うので、農業を大事にし、産業、工業が発展することを望む

◎農地の整備と後継者不足の改善

◎農業人口の減少に比例して児童数も減っている。農業は大切だが、「この地域で固執していいものだろうか？」と日頃頭をよぎることが多い

◎20 年～30 年先も地域の農業が大切にされ、自然環境も良好に保たれ、定住する若い世代や移住者が増えることを願っています

◎30、40 代で小中学校の子を持つ親として、家業の農業を継がせたいと思っている人ははっきり言って一人もいません(身内な話ですが)。最終的には子どもの判断ですが、親としては継いで欲しく

ない、継がせないと決めている人しかいません。

20、30 年後、田園環境エリアはただの空き地になっているかもしれませんよ

◎生活が成り立つ農業をベースに、耕作放棄の拡大を抑制

◎農業の若い後継者不足のため農地の耕作放棄が進み将来的（あと 10 年後位）になると農地が荒れ放題、雑草が生い茂り環境が悪くなると思われる

◎自動車、農機等の古いものが買い入れて置いてある場所が多すぎ。生活環境が悪い。市の注意をのぞむ

◎若い方が農業に従事しやすい環境づくりを

3 | 商工業の誘致や振興について（8件）

小山市域全体での観光振興や活性化についてのご意見が寄せられた。

4 | 開発と生活環境などについて（合計 22 件）

4-1 大谷南部地区の環境、空き家・空き地、人口減少への不安など（15 件）

空き地、荒地の増加、平地林の伐採とヤードやソーラーパネルの建設で景観が悪くなり、さらに土地が荒れていくこと、獣害の増加にもつながっていることが指摘され、その改善を望む声がほとんどである。

4-2 市域全体について（5件）

4-3 駅周辺について（2件）

B：移動と交通について

5 | 車での移動、道路の状況について(合計 15 件)

5-1 道路の不具合、渋滞について（4件）

◎交通の要衝と言われていた小山市だが、北関東道や圏央道の IC から外れ、道路網の整備が立ち遅れている。いわゆる大谷南部地域も道路整備が立ち遅れ、隣接する野木や結城の境目を見ると情けなくなるほど

◎県道の拡張計画はあるようですが、交通量が増

え、計画を実行してもらいたい

◎①南和泉地区の道路拡幅と歩道の整備②農地の区画整理③間々田駅東口から新4号へ抜ける道を南和泉の点滅信号があった道へつなげる④南和泉の南に野木から新4号へ抜ける道を通す

◎道路が整備されることは良いが、それに伴い、大型自動車が狭い道路でもスピードを出して通っており、危なく感じる人が多い

5-2 歩行者と自転車への配慮（11件）

◎子供達が安心して通学できる通学道路の確保

◎小山市体育館ができ大変喜ばしいのですが、東側道路、残土の積み上げ、特に雨天後、学生さん、自転車、車等に危険を感じます

◎歩道の整備、安全に歩ける街、私有地の木々や草が歩道をふさいでいる場所が多い。何とかできないか？子どもたちが安全に歩いたり自転車に乗れたりできない。交通事故防止

◎大きな道路はすぐに目につくから整備されているが、住宅街に続く道はほとんど整備されていない。道路が崩れているし、雨が降れば冠水もする。小学校に続く途中までは歩道があって安全に見えるが、それは周辺だけにあって小学校に続くまでの道には、歩道はない(ダンプや大型車も通るというのに)

◎子供たちが安全に歩けるよう、道幅を広げてほしい

◎市道なのですが、大型車が通行するようになり、道幅が狭く危険です。早急に歩道の整備をお願いします

◎歩道、路肩、車道と安全に通行できる道路が望ましい

◎住民が安心して暮らすための環境は、集落のある道路に歩道がある事だと思います。それは第一に通学路の確保、そして、住民が安全に歩ける(特に高齢者)歩道の設置が欲しいと思います

◎道路幅が狭いので、道路を整備して、車の規制をかけない。交通の利便性をよくする

◎道路状況が非常に悪い。いまだにくねくね道で車同士がすれ違えなく路肩に落ちる。「市」とは思えない

◎現在、市街地中心のインフラ整備であり、私の地区の市道はまったく整備されていないでいる。(事故が多い) 田園地帯を守っていくのもまず先に道路を計画的に整備してからだと思います

6 | 公共交通機関について（合計 17 件）

6-1 おーバス・路線バス（6件）

6-2 高齢化社会と脱・車社会（10件）

6-3JR 路線、新幹線停車駅であることを活かした発展を望む（1件）

おーバス路線の開設を望む声が多く、近くにスーパーや医療機関もない地域での免許返納ごの生活が成り立つのかどうか、強い不安の声が多く寄せられている。

C：生活環境や福祉などについて

7 | 教育、子育て世代・若い世代について（15 件）

具体的な要望が複数述べられているが、総じて「子育てがしやすく若い世代が住みやすい環境づくり」に集約される。

8 | 高齢化社会について（9 件）

公共交通機関に関するご意見（6）に通じ、将来への不安が大きいことがさまざまに語られている。

9 | 地域コミュニティ、共生社会について（5 件）

消防団の担い手不足の悩み、ゴミ捨て場の当番制のルール提案、若い世代と高齢者の交流の必要性などのご意見がある。提案を1つ紹介する。

◎私達の地域には、最近整備された小さな神社があります。農家で規格外になった野菜や趣味で作られた作物を、神社の場所をお借りしてマルシェ

の様な事ができるのではないのかなと思います。

10 | 安全・安心な環境について（5件）

ヤード（中古自動車置き場）や解体作業場の増加に伴い、多様な人の出入りが増えていることへの治安面での不安が多く、また、暮らしのライフラインの見直しを希望するご意見もある。

D：その他のコメント（12件）

E：複合的なコメント（8件）

上下水道の問題についてのご指摘、犬と散歩できる公園を望む声、現在の農業政策のままでは将来の不安が大きいこと、住み良い街ではあるが交通渋滞や治安の面での不安が増していること、人や自転車に優しい道路計画を希望することなど、多様なご意見が寄せられている。ここでは、小山市域全体への視点を2つ紹介する。

◎生産年齢人口を増やすということを前提に考えると、将来的には今よりさらにリモートワークをする人も増え、月4～5回首都圏に通勤する人も多くなるかもしれません。週2～3回の通勤では負担を考え、首都圏近くに住まいを構えた人も、月4～5回の通勤であればもっと首都圏から離れても良いと考える人もいます。そんな時に小山市を選んでくれるよう、他の近隣都市との差別化を図っていったら良いのかなと思ったりもします(新幹線が停まる小山駅以外に)。空き家の提供はどこの自治体もやっていますから、それ以上の何か。

◎自然がある程度保護されつつも、職に就くための産業の発展が必要かと。若い人達が生き生きと働ける小山市になることを望みます。都会への流出を防ぐためにも。また、農業と産業が連携した職場づくり(会社の設立)を希望します

参考・引用文献

本報告書を作成するにあたり引用した文献を中心に、小山市、小山地区の地域調査・研究を行う上で参考となると思われる文献をまとめる。文献は、作業の中で主にどの分野の情報を得るために用いたかに基づき、仮に項目を分けて整理した。

1 風土の定義

藺田稔編『神道』弘文堂、1988 年

アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』那須壽監訳、筑摩書房、2015 年

思川の自然調査委員会『都市の清流…思川を歩く』（小山市教育委員会、1994 年

和辻哲郎『風土—人間学的考察』岩波書店、1979 年

オギュスタン・ベルク『風土の日本—自然と文化の通態』篠田勝英訳、筑摩書房、1988 年

廣重剛史『意味としての自然—防潮林づくりから考える社会哲学』勁草書房、2018 年

廣瀬俊介「風土形成の一環となる環境デザインについて：人文科学における研究成果の参照による風土概念検討を通して」『景観生態学』21 (I)、日本景観生態学会、2016 年、15-21 頁

<https://doi.org/10.5738/jale.21.15>

2 地質・地形

小山市史編さん専門委員会編『小山市史通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984 年

金森定敏「思川の地形と生物」小山市史編さん専門委員会

編『小山市史研究』6、小山市教育委員会市史編さん室、1984 年、25-36 頁

小山市教育研究所編『小山市郷土文化研究誌 第 13 集』小山市教育研究所、1971 年

国土地理院 | 地理院地図

<https://maps.gsi.go.jp>

国土地理院 | 明治期の低湿地データ | 原典資料: 第一軍管地方二万分一迅速図原図 (明治 13-19 年)

https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/lc_meiji.html

国土地理院 | 空中写真閲覧サービス

<https://geolib.gsi.go.jp>

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター | 地質図 Navi

<https://gbank.gsj.jp/geonavi/>

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 | 日本土壌インベントリー

<https://soil-inventory.rad.naro.go.jp/>

田辺晋「関東平野中央部における沖積層の基盤地形」『地質学雑誌』127 (10)、2021 年、635-648 頁

<https://doi.org/10.5575/geosoc.2021.0019>

木森大我・須貝俊彦「DEM-GIS 解析からみた、氷期の開析地形による制約下での鬼怒川の完新世堆積作用と地形変化」日本地球惑星科学連合 2019 年大会発表ポスター HQR05-P06 予稿 (PDF)

<https://confit.atlas.jp/guide/event-img/jpgu2019/HQR05-P06/public/pdf?type=in&lang=ja>

3 気候

小山市教育研究所編『小山の自然と社会』小山市教育委員会、1965年

五十嵐典夫ほか『益子の歴史』益子町、1983年

栃木の自然 編集委員会編『栃木の自然をたずねて』築地書館、1997年

気象庁 | 過去の気象データ検索

<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>

4 生物と生態系

Millennium Ecosystem Assessment 編『国連ミレニアムエコシステム評価 生態系サービスと人類の将来』横浜国立大学 21 世紀 COE 翻訳委員会責任翻訳、オーム社、2007年

栃木県 | レッドデータとちぎ WEB

<http://tochigi-rdb.jp/>

環境省 | 生物多様性センター | 自然環境調査 Web-GIS

<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>

山本勝利・楠本良延・椎名政博・井手任・奥島修二「農村景観構造に基づく生物生息空間の評価」『システム農学』

23 (1)、システム農学会、2007 年、1-10 頁

https://doi.org/10.14962/jass.23.1_1

本田計一「鱗翅目昆虫とアルカロイド」『化学と生物』36 (6)、日本農芸化学会、1998 年、359-367 頁

<https://doi.org/10.1271/kagakutoseibutsu1962.36.359>

服部保・田村和也・小舘誓治「フジバカマ生育地の現状と保全」『ランドスケープ研究』63 (5)、日本造園学会、1999 年、477-480 頁

<https://doi.org/10.5632/jila.63.477>

佐渡トキファンクラブ「トキのためのお米を食べる」

<https://toki-sado.jp/ikimonohagakumu/>

5 歴史

「再発見 しもつけの史跡 117 中久喜城跡 (小山・国指定)」『下野新聞』2021 年 8 月 19 日、23 面

原宏『小山の歴史—ひとと まちの あゆみ』随想舎、2023 年

小山市教育研究所『小山の自然と社会』小山市教育委員会、1965 年

6 地形と陸上・河川交通

小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1986 年

阿部昭、橋本澄朗、千田孝明、大嶽浩良『栃木県の歴史』山川出版社、1998 年

『第 123 回企画展 下野の鎌倉街道』栃木県立博物館、2019 年

高橋修、宇留野主税『鎌倉街道中道・下道』高志書院、2017 年

今井敏行「集落内道路の整備診断手法に関する一考察」『農村計画学会誌』1(2)、農村計画学会、1982 年、26-35 頁

<https://doi.org/10.2750/arp.1.26>

奥田久『内陸水路の歴史地理学的研究 - 近世下野国の場合』大明堂、1977 年

奥田久監修『栃木の水路』栃木県文化協会、1979 年

「日光道中絵図巻 5_野木宿より小金井宿まで」国立公文書館 デジタルアーカイブ

<https://www.digital.archives.go.jp/item/1603304>

7 遺跡

「栃木県埋蔵文化財調査報告第189集 八幡根遺跡」栃木県教育委員会・(財) 栃木県文化振興事業団

とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター編『栃木県埋蔵文化財調査報告第380集 金山遺跡 (第2・第3次調査)』栃木県教育委員会、2016年、4、30頁
<http://doi.org/10.24484/sitereports.71690>

とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター前掲書、同「埋蔵文化財センターだより」2020年3月号

田村隆・国武貞克・大屋道則「栃木県高原山黒曜石原産地遺跡群の発見とその評価」『日本考古学』13 (22)、2006年

8 農業

『栃木県下都賀郡誌 (復刻版)』千秋社、2004年 (「下都賀郡小誌」「下都賀郡制誌」を合本収録)

小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年

村上直「近世における小山市域の諸村の様相について」小山市史編さん専門委員会編『小山市史研究』2、小山市企画部市史編さん室、1979年、26-47頁

高木正敏「近世林野入会の成立——一七世紀後半期下野国を中心として」小山市史編さん専門委員会編『小山市史研究』4、小山市教育委員会市史編さん室、1982年、45-65頁

農業農村工学会「平野の拡張、新田開発」
<http://www.jsidre.or.jp/tabata3-a/>

長野県ウェブサイト | 農業試験場 | 「安全な農産物の供給・農地土壌の変遷」に関する試験研究
<https://www.pref.nagano.lg.jp/nogyoshiken/naiyo/kan-kyo/environment.html>

林健太郎・江口定夫・柴田英昭・仁科一哉・内田義崇「食の持続性と低環境負荷の両立を目指す窒素管理研究への土壌学の貢献」『日本土壌肥科学雑誌』88 (2): 2017年

9 工業

田島康弘「大都市における工業化の進展と農村の対応—栃木県小山市開拓集落の場合」『地理学評論』48 (10)、日本地理学会、1975年、742-755頁
<https://doi.org/10.4157/grj.48.742>

10 信仰・祭礼

小山市史編さん専門委員会編『小山市史民俗編』小山市、1978年

小山子どもの森 | 辻固め
<http://www3.oyama-tcg.ed.jp/~shimonamai/kotyositu/tuji.html>

11 地名

菅間久男『小山市の地名由来と歴史』随想舎、2006年

12 大谷地区郷土誌

大谷地区わがまち元気発掘推進協議会編『大谷郷土誌』発行同左、2015年

栃木県小山市年開発部区画整理課編『犬塚土地区画整理事業 竣工記念誌』小山市、1998年

田園環境都市おやまビジョン 基礎資料
大谷南部地区

2023 年 10 月

小山市